

(別表第1)

# サービス評価結果表

## サービス評価項目

(評価項目の構成)

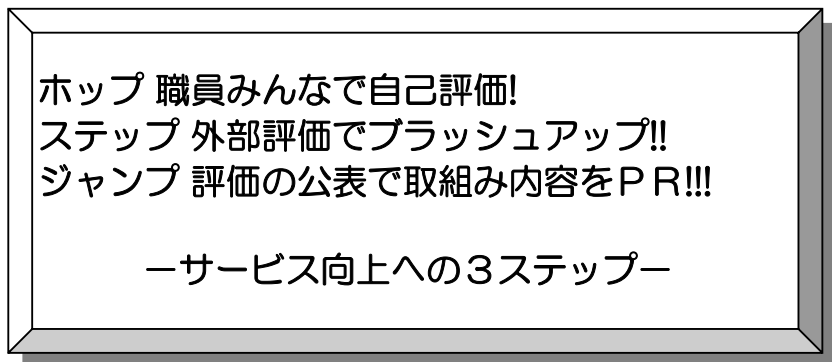
### I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

### II. 家族との支え合い

### III. 地域との支え合い

### IV. より良い支援を行うための運営体制



#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 7 月 7 日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 24名	(依頼数) 25名
地域アンケート回答数	10名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3870102120
事業所名	グループホームせと
(ユニット名)	さくら
記入者(管理者)	
氏名	住吉大輔 忽那圭剛
自己評価作成日	令和 3年 3月 31日

<p>【事業所理念】</p> <p>明るく 楽しく 穏やかに</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>1、特に排泄に関する場面について、プライバシーに配慮した言葉がけや対応を行うため、ユニット内で現状の把握と改善点を話し合いを行った。日々のケアで具体的にどのように対応するか、言葉がけの方法を決め、実践している。 2、個別面談の開催については全職員とはならず、新人職員・計画作成担当者等、優先順位が高いと定めた職員のみにとどまっている。目標管理シートを活用し、9月・3月には全職員対象に面談を行いたい。 3、地域の認知症ケアの拠点としての機能を果たせるように、認知症カフェの開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、開催を見合わせた。地域の役員会等も中止となっており、コロナ禍においても認知症ケアの拠点としての機能を果たせるように取り組みを検討していきたい。 4、食事に関して楽しめる場面を作るため、外注サービスを利用しながらメニューを選んでいただいたり、希望の食事を伺い、そのメニューを提供できる場面が増えている。おやつなどでも、おはぎ作り・ケーキのデコレーションなどを利用者と一緒にやっている。 5、ユニット玄関の電子ロックについては、ユニット内で電子ロックの使用について話し合い、現在、日中の活動時間において電子ロックを使用していない。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>国道近くの立地条件の良い場所に事業所は建っているものの、周辺には田園風景が広がり、静かな環境となっている。事業所の広い敷地には、びわや桃などの果樹が植えられ、収穫を楽しむイベントがあるほか、東屋も建てられているなど、利用者や地域住民の憩いの場となっている。事業所の開設当初から町内会とも協力関係を構築し、地域に根ざした活動を積み重ねている。事業所は開設して21年目を迎え、利用者の高齢化とともに重度化が進んできており、事業所の敷地内の家庭菜園などの活用がなくなっているものの、利用者が閉塞感をもたないように、自身の持っている力を発揮しながら、職員が自由で穏やかな暮らしが送れるよう支援している。また、医療法人の利点を活かして、事業所には複数の看護師を配置し、24時間の医療連携体制を整備して看取りケアにも力を入れている。コロナ禍で面会もままならない状況にあるが、職員は電話や手紙で丁寧に利用者の状況を報告し、家族の信頼を得ることができている。</p>
------------------------------------	--	--

評価結果表

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1)ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居時に聞いたり、普段の生活や会話から把握するよう努めている。	○	/	○	入居時に、職員は利用者や家族から思いや暮らし方の希望などを聞き取りをしているほか、フェイスシートにまとめて記載し職員間で情報共有をしている。また、日々の生活の中でも、職員は利用者から希望を聞いたり、表情などから汲み取ったりするなど、新たに得た情報は追記している。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	表情やしぐさなどからできるだけ本人の思いを把握するよう努め、検討している。	/	/	/			
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	コロナ禍であまり行えていないが、面会、受診時などにご家族と話し合っている。	/	/	/			
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	日々の様子、会話、言葉等記録に残している。	/	/	/			
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	スタッフ同士で話し合ったり、見落としがないよう意見等共有している。	/	/	/			
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居前に面談し、話しを聞いたり、入居時にはご家族にフェースシートを記入してもらい、把握に努めている。	/	/	○	入居に際して、職員は利用者や家族からこれまでの暮らしや生活歴などの聞き取りをするほか、記載してもらうこともある。また、今までに関わってきた関係者などから、これまでの介護サービス利用の経過などの情報を得ることができている。
b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の生活の中で見極め、記録に残したり、カンファレンスで話し合ったりし、現状把握に努めている。	/	/	/			
c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	会話や態度、行動、表情などから把握するよう努めている。	/	/	/			
d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	本人、またスタッフ同士で話し合ったりして、要因把握に努めている。	/	/	/			
e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	一人ひとりの生活リズム、日々の変化を見逃さないようにしている。	/	/	/			
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	今、その人に必要なことを見極め、本人の視点で検討するようになっている。	/	/	◎	利用者や家族から聞き取った情報や、日々の関わりの中から職員が得た情報をもとにして、日々の申し送りやカンファレンスの中で話し合い、利用者の視点でのサービス内容を検討している。
b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	必要な支援を見極め、日々の申し送りやカンファレンスなどで検討している。	/	/	/			
c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	アセスメントした内容をケアプランに反映させ、課題を明らかにしている。	/	/	/			

愛媛県グループホームせと

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の思いや必要な支援を見極め、反映された内容になるよう努めている。	/	/	/	介護計画は、利用者や家族から思いや意向を聞いているほか、計画作成担当者のみの視点にならないよう原案についても、前もって家族に説明して意見をもらっている。また、出された意見をもとにして、ケアカンファレンスの中で話し合い、職員の意見やアイデアを反映して、介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	毎月、ケアカンファレンスを行い、意見等話し合い、また、ご家族には介護計画書を見てもらった時に要望等書いてもらい、反映させるよう作成している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	重度になり、寝たきりになってしまい難しいが、できるだけその人らしい内容になるよう努めている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	ご家族との関わり、協力内容は盛り込まれているが、地域の人たちとの内容はほとんど盛り込まれていない。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	毎月カンファレンスで話し合い、内容の把握、共有に努めている。	/	/	○	利用者一人ひとりの介護計画の内容は、カンファレンスの中で話し合い、職員間で情報共有できている。また、介護計画の要約はカードにまとめて、記録の際には確認できるようになっている。また、日々の暮らしの様子のほか、利用者が具体的に発した「痛い、痛い」などの言葉も生活支援経過記録に記載されている。さらに、職員の気づきやアイデアなども、個別に記録して職員間で共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎月モニタリング、アセスメントを行い、カンファレンスで話し合い、日々の支援につながるよう努めている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	一人ひとり、日々の様子、言葉など記録している。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	個別の記録用紙を作成し、変化があったことや気づきなどを記録するようにしている。	/	/	◎	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	毎月カンファレンスを行い、期間に応じて見直ししている。	/	/	/	◎ 事業所では、ユニット毎に「ケアプランチェック表」を作成し、一人ひとりの様々な情報を確認しやすくなっている。介護計画は、3か月に1回を基本として見直しをしている。介護計画の変更か所は赤色と、機能向上に関するものは青色で記載し、家族への計画変更の説明時にも分かりやすいように記載している。また、事業所では、毎月モニタリングを実施し、利用者の現状を確認できている。さらに、利用者の状態に変化が生じた場合には関係者で話し合い、介護計画の見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月モニタリングを行い、また、実施者を変えたり、複数の目線で現状確認を行っている。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態に変化があった場合は、その都度見直しし、現状に合わせた計画を作成している。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月カンファレンスを行っている。緊急時はその日いるスタッフで話し合っている。	/	/	◎	毎月、各ユニット毎に業務カンファレンスとケアファレンスを実施している。緊急案件があった場合には、出勤職員でその都度話し合いをしている。定期会議にはできる限り多くの職員が参加できるよう調整しているが、参加できなかった職員には会議録を確認してもらうほか、申し送り時に伝達して情報共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	気づきや考え、気持ちを話しやすい雰囲気にするよう気をつけ、スタッフに発言を求めたり、工夫している。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	出来る限りスタッフが参加できるような日時を選んでいる。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	話し合った内容を記録に残し、回覧にしたり、日誌に記録したりしている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	業務日誌に記録し、検討、共有するようにしている。	/	/	○	「介護業務日誌」や「ケア業務伝達申し送り簿」を活用して、勤務帯ごとに申し送りを実施している。日誌などには、職員の確認欄があり、確認後にはサインをする仕組みをつくり、確実な申し送りにつなげている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りをし、重要なことは業務日誌に記録し、職員に伝わるようにしている。	◎	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	伝えることが困難な利用者が多い。伝えることが出来ても人間的に叶えることが難しい。	/	/	/	高齢や認知症の進行などにより、思いや意向を自分で伝えられない利用者も多いが、職員は二者択一で洋服を選んでもらったり、好みのおやつや飲み物を選んでもらったりするなど、可能な限り利用者自身で自己決定できるよう工夫している。訪問調査日には、リビングにある2台のテレビで利用者がそれぞれ違う番組を見たり、脳トレや読書をしたりする利用者を見ることができ、一人ひとりが思い思いの場所で自由に過ごされている様子を窺うことができた。また、事業所では利用者の白髪染めをしたり、好みの話題を提供して話し相手になったり、利用者の希望や楽しみを押し量りながら、より良い支援ができるよう努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	決定できる利用者には選んでもらう機会や場面をつくっている。食べたいものや着たい服を二択で選んでもらったりしている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	利用者に合わせて、自分で決めてもらったり、思いを表現するように働きかけ、納得しながら暮らせるよう支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	できるだけ、一人ひとりのペースを大切に、利用者に合わせて、介助、支援をしている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	その人の好きなことを話したり、楽しみを見つけ、活き活きできる雰囲気づくりをしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情やしぐさを見ながら、介助、支援しているが、十分ではないこともある。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	意識して行動するよう努めているが、言葉かけや態度に配慮が足りない時もある。声のトーンに気を付ける。	○	◎	○	職員は、「人権」や「尊厳」について所内研修で学んでおり、意識した行動をとっている。事業所として、排泄支援は前回の外部評価の目標達成計画にも挙げて取り組んでおり、「トイレ」や「便所」と呼ぶのではなく、「化粧室」と言い変えたり、職員同士の会話も利用者に分からないよう、あらかじめ排泄に結びつかないよう工夫したりしている。また、耳の遠い利用者に対して、つい職員が大きな声を発してしまうことも見受けられるため、管理者は「今後も職員への注意喚起が必要である」と感じている。さらに、居室への出入りの際には、ノックや声かけをしてから入室している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	時々、声が大きかったり、配慮が足りないこともある。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	プライバシーに配慮し、介助している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室へ入る時はノックしたり、声かけしたりして入るよう、気をつけている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	資料等で学ぶ機会を持ち、個人情報等は持ち出さないよう、理解し、遵守している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	その人にできることを手伝ってもらったり、感謝し合う関係性を築いている。	/	/	/	職員は利用者同士の関係性を把握し、認知症状などから多少の摩擦が生じることもあるが、職員が間に入り関係改善に努めている。また、他の利用者の行動が気に入り、攻撃的になるような場合には、職員が配席を変えるなどの配慮もしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士でできることは見守りながら、支え合って暮らせるよう努めている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者同士トラブルにならないようにし、出来る限り関わりが持てるよう、支援に努めている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルにならないよう、関わりに配慮している。席などの配置に気を付けている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	フェースシートを見たり、本人、ご家族などから話を聞いたりして把握に努めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	フェースシートや本人、ご家族の話などから把握するよう努めている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	できるだけ途切れないよう支援に心掛けているが、身体的にも、会いに行ったり、出かけることが難しい。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	コロナ禍で制限はあるが面会に来て頂けるよう配慮している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	×	一人ひとりの希望にそって出かけることは難しい。また、人員不足でもある。	○	◎	○	現在のコロナ禍において以前のような外出はできていないが、天気のよい日には近所を散歩したり、中庭の東屋でおやつを食べたりするなど、利用者が外気に触れて気分転換ができるよう工夫している。重度の利用者も体調を見ながら、屋外に出て日光浴をするなど、戸外に出られる時間を増やしている。以前は、敷地内の家庭菜園で野菜づくりなどを楽しんでいた利用者もいたが、高齢化や屋外の暑さに伴い、現在は使用しなくなっている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域の方の協力を得ながらの外出支援は行えていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	×	身体的に難しいが、短時間でも戸外で過ごせるよう支援していきたい。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	コロナ禍で外出ができない。ご家族の協力を得ながら外出できる利用者は外出していきたい。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	一人ひとりの状態、変化に気をつけながらケアを行っている。	/	/	/	心身機能・生活機能アセスメント表を活用して、職員は利用者一人ひとりをチェックし、利用者のできることを把握している。把握した内容は介護計画の目標などにも位置づけ、職員は利用者自身でできることを継続しているよう、見守りながら支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	身体面の機能低下を理解し、体操、レクをしたり、日常の中で残存機能の維持に努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	できることはできる限りしてもらおう、見守り、声かけしながら行っている。	/	◎	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	フェースシートや普段の様子から楽しみなどを把握するようにしている。	/	/	/	おやつ作りや洗濯物たたみなど、職員は利用者のできることや得意なことができるよう支援している。また、テレビを見たり、脳トレや読書をしたりするなど、事業所では利用者の楽しみにしていることをやってもらえるよう支援しながら、一人ひとりが張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう取り組んでいる。季節に応じて、さくらんぼや桃の花などを背景にして、写真の撮影会をすることあり、利用者や家族から喜ばれている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	できる限り出番をつくるよう取り組んでいるが、重度化している利用者の出番づくりは難しい。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の中での支援はできていない。	/	/	/	

愛媛県グループホームせと

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	その人らしい身だしなみになるよう支援している。				利用者の高齢化などに伴い、多くの利用者は毎朝職員が着替えなどの介助が必要で、選択範囲を絞ったり、「この服の色でいい」と声かけをしたりしながら、整容をしている。利用者から要望が出され、職員が白髪の毛染めの支援もしている。毎朝、美容液などをぬる利用者もいる。また、長年の生活で介護度が高くなった利用者も多くいるものの、病院受診などの外出時には必ず着替えたり、職員が家族と話して、好みの服を持って来てもらったりするなど、少しでも本人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	本人の好みの物を持って来てもらい、支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人の気持ちに出来るだけそうよう考え、支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節や行事に合わせて、その人らしい服装になるよう支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	プライドに配慮し、さげなく支援している。	◎	◎	◎	
		f	整容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	訪問カットを利用しているが、コロナ禍でできていない。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	できるだけ本人らしさを保てるよう、ご家族に衣類を持ってきてもらったりしながら支援している。				
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	大切さを理解している。				献立や食材は2か所の業者を利用し、職員がアレンジをしながら1か月分の食材をまとめて発注して配達してもらおうほか、職員が不足分の食材やおやつなどの買い出しもしている。調理の下ごしらえやおやつのお盆ふきなど、利用者のできることを手伝ってもらいながら、各ユニットで職員が調理している。献立づくりの際には、業者の利用を止めて利用者の好みや希望を取り入れて調理することもあり、訪問調査日は七タと重なり、手作りのちらしずしに星型の錦糸卵を飾る演出がされており、季節を感じる事ができた。食器類は、自宅から使い慣れたものを持参している利用者もいるものの、事業所では利用者の状況に合わせて、使いやすい物を用意している。現在のコロナ禍において、職員は見守りや食事介助などのサポートに徹し、利用者と一緒に食事をしていないが、「職員と一緒に食べることで、利用者の食事への意欲がわいていたのではないかと考察している。また、調理の匂いや雰囲気はリビングに面したキッチンから漂っており、職員から利用者へ「今日はお寿司ですよ」と声かけしている様子も見られた。献立に関して栄養士のアドバイスは受けてものの、事業所では利用者一人ひとりの栄養スクリーニングを実施しており、食べやすい物や調理方法などを工夫している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	メニューを二択で選んでもらったり、できるときはしている。下膳できる利用者もいるが、買い物、調理等は難しい。			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	×	できる利用者がほとんどいない。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	フェースシートや本人の話から把握するようにしている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	△	献立はユニットでは作っていないが、炊き込みやちらし寿司などを選んでもらい、作る時もある。季節感を感じさせる食材は取り入れている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	△	盛り付け、食器などは一人ひとりに合わせて工夫している。安易にはしていないが飲み込みが悪いため刻み食にしている方がいる。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等を使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	その人に合わせて使いやすい物にしている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさげなくやっている。	△	コロナ禍と一緒に食事をすることはできないが、一人ひとりに合わせて、声かけ、介助している。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	重度な方は経口摂取ができない。できる方は会話しながら食べてもらっている。		○	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事量、水分量を記録し、必要分は確保できるようにしている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	その時食べられなくても、時間を置いて介助したり、好きな物、食べられる物を出すなどし、工夫している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	決められた献立であるが、好きそうな物、食べやすい物を選んでいる。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食器は乾燥機を使用している。食材は賞味期限等に気をつけ、安全な使用、管理に努めている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	歯科衛生士の助言、支援も受けながら、口腔ケアを行っている。				毎食後口腔ケアを実施し、自分で歯磨きなどができる利用者についても、職員が口腔内の状況を確認するようにしている。事業所では、毎食後の口腔ケアが習慣化しており、できる部分はうがいのみでも自分で行えるよう支援しながら、日常的に口腔内の清潔を支援している。また、定期的に歯科衛生士による口腔内のアセスメントのための訪問があり、職員間で情報共有してケアに活かしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアをしながら、できる限り把握するよう努めている。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	訪問歯科に来てもらい、歯科衛生士の助言を受けながら、支援に活かしている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	適切に行えるよう支援している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	一人ひとりに合わせて、できることはしてもらい、必要な方は介助している。洗口液を使用し、口臭予防に努めている。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	不具合がある時は訪問歯科に依頼し、対応している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	できる限り、トイレでの排泄を促している。紙パンツ等安易に使用せず、必要時のみにしている。				事業所では、利用者がトイレで用を足すことを基本として支援している。日中は、重度の利用者も可能な限り、2人体制の介助でトイレへ行けるよう支援している。夜間にはポータブルトイレを設置し、排泄支援をしている利用者もいる。また、布パンツで過ごしている利用者もおり、おむつや紙パンツなどの排泄用品は職員間で必要性を検討し、利用者や家族の理解を得たうえで使用している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解できている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	一人ひとりのパターンを把握するよう努め、支援している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	できる限り、トイレでの排泄を促し、オムツ類の使用についてはその都度話し合っている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	少しでも改善できるよう検討し、必要時は薬の調整もしている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	一人ひとりのパターン、行動に合わせて誘導、介助している。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	その人に合わせて、必要な物、時間帯を把握し、支援している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人ひとりに合わせて、使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	一人ひとりに合わせて、便秘予防になるよう、牛乳や飲むヨーグルトを毎日飲んでもらっている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	安全面を考え、時間帯は制限されることはあるが、可能な限り希望を考慮し、入浴できるようにしている。	◎		○	身体状況や浴室設備の関係で、湯船に浸ることができる利用者は少なく、ほとんどの利用者はシャワー浴での対応をしている。身体が温まるよう脱衣所の暖房や足浴しながら、職員は利用者が3日に1回入浴できるよう清潔保持に努めている。また、職員体制の関係で、午後の入浴となっているが、利用者の汚染時などには柔軟に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	一人ひとりに合わせて、支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できることはしてもらい、入浴中は必ず見守りしている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	声かけやタイミングなど工夫し、行っている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	その日の状態を確認し、見極め入浴してもらっている。入浴後も状態確認している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	一人ひとりのパターンは把握できている。	/	/	/	職員は、睡眠導入剤や安定剤のリスクを承知しており、眠れない利用者には日中の活動を見直したり、リビングでテレビを見て過ごしてもらったりするなど、可能な限り薬に頼らない支援に努めている。高齢化や重度化により、日中もベッドで寝ている利用者もいる。また、認知症状の進行などにより、昼夜興奮して叫ぶなどの利用者の状況や必要性に応じて、主治医と相談のうえ対応している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	△	日中起きてもらうよう、レクをしたり支援しているがリズムを整えることが難しい。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	その人の状態を見ながら話し合い、検討し、医師とも相談しながら支援している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	一人ひとりに合わせて、支援している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	希望があれば電話したり、手紙が届いたりしている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	決めつけはしていない。必要時は支援している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	電話はいつでもできる。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	届いたものは本人に渡している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	必要時は協力をお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	大切さを理解はしている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	買い物に行ける利用者がほとんどおらず、お金を所持することも困難。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買い物に行ける利用者がほとんどおらず、買い物支援を行っていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	決めつけてはいないが、所持したり、使ったりできる利用者がおられない。希望があれば、家族と話し合い、少額所持できるよう支援する。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族の了解を得て、お小遣いとして預かっている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	家族の同意を得て、お小遣いを預かっており、出納帳の記入、確認も行っている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その時々々のニーズに合わせて、柔軟な支援ができるよう取り組んでいる。	◎	/	○	行きつけの美容室に出かけたり、マッサージなどの外部サービスの利用ができるよう手配したりするなど、利用者や家族のニーズに柔軟に対応している。法人の医師が、ほとんどの利用者の主治医となっているが、外部の医療機関の受診時にも、状況に応じて職員が送迎や同行支援をすることもある。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>(3)生活環境づくり</b>										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	門を開放しており、気軽に入れるよう工夫している。	◎	◎	○	事業所の敷地前にある門は、来訪者が入りやすいよう開放されている。中庭には洗濯物が干してあり、生活感があって親しみやすい雰囲気である。玄関アプローチには、手入れされた鉢植えの花が咲いており、来訪者を出迎えてくれている。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	△	季節に合わせた飾りを飾っているが、気になって触ったり、転倒したりすると危ないので、最小限の飾りになっている。	○	◎	○	各ユニットのリビングは広く、中央に食卓テーブルが並びキッチンに面している。キッチンなどから見えにくいスペースもあるため、室内用のカーミラーを取り付け、職員が利用者の状況を確認しやすくする工夫をしている。利用者や来訪者から、職員が食事の支度をしている様子がよく見え、家庭的な雰囲気となっている。各ユニットのフロアにはテレビも2台ずつ設置され、利用者一人ひとりが思い思いにソファでくつろげるようなスペースを確保している。共用空間は職員が毎日掃除しているほか、空気清浄機も設置され、清潔な空間となっている。また、利用者と一緒につくった七夕飾りが飾られ、利用者や来訪者に季節を感じさせてくれている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日、拭き掃除もしており、臭いがある時は原因を見つけてすぐに対応している。					○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節に合わせた飾りつけをしており、居心地よく過ごせるようにしている。					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	利用者同士で過ごせるよう、ホールにソファを置いたり、居室へも自由に戻り過ごせるようにしている。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	ドアを開め、見えないようにしている。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので生活して、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	本人が使い慣れた物、馴染みの物など持ってきてもらい、居心地よく過ごせるようにしている。	◎		○	居室には、エアコンとベッドが備え付けられている。居室に使い慣れたチェストなどを持ち込んでいる利用者もいるものの、基本的には車いすを使用している利用者が多く、動線を確保するためにもシンプルに片付けられている。また、家族の写真やお位牌を持ち込んでいる利用者もあり、一人ひとりが居心地よく過ごせるような居室づくりをしている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	ホール、トイレ、浴室などには手すりがあり、出来るだけ自立した生活ができるよう工夫している。			○	ポータブルトイレに介助バーを設置して、安全に利用できるようにしたり、ベッドから居室の隣にあるトイレまで一人で安全に移動できるようにいすを配置し、手すり代わりに活用している居室もある。口腔ケアの用品を柔らかいスポンジに変えたり、カップを横広のスプーカップにすることで一人で飲めるようにしたりするなど、事業所では、利用者ができるだけ自立した生活が送れるよう様々な工夫をしている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	unnecessaryな物は置かないようにし、異食につながらないように必要な時にだけ置くようにしている。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	安全面を考え、置けない物もあるが、歌本などは自分で取って使用できるようにしている。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	理解はしている。	◎	◎	◎	利用者が鍵をかけて自由に出入りできないことの弊害について、全ての職員が理解できている。玄関の施錠は、防犯のため夜間のみとし、ユニットの出入り口は昼夜通して開放されている。また、高齢や介護度の高い利用者も多く、外に出ようとする利用者は少なくなっている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	夜間帯を除き、鍵はかけていない。二階であり、夜間はスタッフが一人になるため鍵をかけている。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	日中は見守りを強化し、ホールには必ずスタッフが居るようにしている。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	一人ひとり情報を見て把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	一人ひとりの変化、異常の早期発見に努め、発見時は記録に残すようにしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	異常がある時はすぐにNS、Dr. に相談し、早め早めの対応をしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	家族の希望にそって受診できるようにしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	家族の希望に合わせ受診し、必要な情報はスタッフが同行して伝えたり、手紙などに書き情報提供している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院、受診の仕方などについて、家族と話し合い、結果もきちんと報告し、不安なこと、気になることなど話し合うようにしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	サマリーに記入し、情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	面会に行き、家族、病院NSなどに話を聞き、情報交換に努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	入院時は対応できるよう、関係づくりに努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	NSが配置されており、毎日、Dr. の往診もあり、いつでも相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	当番NSが決めてあり、いつでも相談できる体制をとっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	その日、必ずNSがあり、異常時はすぐに相談し、対応している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	使用薬を個人ファイルにとじており、理解するようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬を出すとき、服薬する時は、二人で確認し、誤薬を防ぐようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	本人の状態を見ながら、必要なか、合っているのかを、NS、Dr. に相談し、確認している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	本人の状態、変化を記録しながら、必要時、家族、Dr. NSに伝えている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時、状態変化があった時に、家族、Dr. NSと話し合い、意向を確認し、方針を共有するようにしている。	/	/	/	事業所では、「最後まで、人間らしく、その人らしく、安らかに」を基本理念として、看取りケアを実施している。重度化した場合と、終末期のあり方については、家族を含め関係者で話し合い、方針を共有している。事業所では、医療や看護の24時間のオンコール体制が整っており、職員は安心して利用者に寄り添うことができている。また、重度化や急変時には病院への入院や特別養護老人ホームなどへの転院する利用者も多い。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	家族、Dr. NS、職員で話し合い、方針を共有している。	○	◎	/	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員の不安な思い、力量を把握し、どこまでの支援ができるか見極めている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	できること、できないことをきちんと説明し、家族に理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族や医療機関と連携をとりながら、今後の変化に備えての検討やチームで支援していく体制を整えている。リスクについても十分説明している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の思い、不安なことなどを聞き、理解し、支援するようにしている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	定期的に学習会を行ったり、資料を回覧したりして学ぶようにしている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	ハイター消毒をしたり、マスクを使用したり、予防に努めている。対応の取り決め、手順はあるが、訓練はできていない。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	発生状況の情報を入手している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	発生状況の情報収集に努め、その都度、対応している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗いをし、玄関には消毒、マスクも置いてあり、清潔保持に努めている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	面会時には状況、状態などを話し、共に支えていく関係を築くようにしている。				現在のコロナ禍において、感染症対策で面会や外出制限が設けられているため、以前のように家族に呼びかけて、行事や催しに参加してもらうことができなくなっている。現在は家族会も中止し、面会も週1回の制限を設けているものの、玄関のガラス越しで電話の子機を活用して話ができるよう工夫している。日常の利用者の様子は職員から電話連絡のほか、手紙に写真を添えて伝えるようにしている。手紙は担当職員が毎月書いており、利用者の直筆の手紙を添えることもあり、家族から喜ばれている。事業所の生活も長くなり、家族から職員に「父の日のプレゼントを用意して欲しい」と頼まれて用意した事例もある。事業所の運営上の事柄や出来事については、運営推進会議録や「せと風だより」を家族に送付して理解を得るようにしている。また、職員の異動等についても事業所便りで伝えている。職員は、家族と気兼ねなく話ができる関係を築けており、電話連絡や来訪時を活用して、家族から意見や希望を聞いている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	コロナ禍で制限はあるが面会に来て頂けるよう配慮している。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	コロナ禍で行えていない。できる時は外出、行事などの時はお知らせし、参加してもらっていた。		○	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月、お手紙にて様子、状態をお知らせしている。必要時は電話で伝えている。		◎	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	△	面会時などに、家族の意見などを聞き、報告するようにしている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	本人、家族との関係、どのような対応が必要かの理解に努め、支援している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	その都度、報告をし、理解、協力を得るようにしている。		○	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	コロナ禍で行えていない。行える時は家族会を開催し、交流を図る機会をつくっていた。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	一人ひとり、リスクについて、その都度説明し、対策を話し合っている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	△	面会時にお話するようにしている。			◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時には十分時間を取り、説明し、理解、納得を得るようにしている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	契約時にもきちんと説明し、退居時は納得のいく転居ができるよう支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	きちんと説明し、同意を得ている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域の方へ、きちんと説明を行い、理解を得ている。	/	◎	/	事業所は町内会に入っており、祭りや川の清掃など地域の様々な行事に参加したり、地域の幼稚園児や中学生との交流をしたりしている。敷地内にある以前デイサービスとして利用していた空きスペースを、近隣の幼稚園の建て替えに伴ってスペースを貸し出し、今年の5月頃まで幼稚園児の声などのにぎわいがあった。現在のコロナ禍において、地域住民との関わりをなかなか持てない状況となっているが、運営推進会議等での関わりは継続できているほか、年2回発行している「せと風だより」も地域に回覧してもらおうなどの情報発信もしている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	あいさつもきちんと行い、地域行事にもできるだけ参加するようにしている。	/	◎	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	見守り、支援協力してくれている。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	気軽に立ち寄りすることはほとんどない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	あいさつしたり、話したりはしているが、立ち寄ってもらったりはしていない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナ禍で行えていない。行っていた時はボランティアの慰問などがあり、踊り、歌など見せてくれていた。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域資源の把握はあまりできていない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の方、消防、交番などに協力を得られるよう働きかけを行っている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	×	コロナ禍で行えていない。行っていた時は利用者、家族、地域の方には毎回参加してもらっていた。	○	/	◎	コロナ禍で以前のような集合形式での運営推進会議が開催できなくなり、現在は書面での開催となっている。会議開催にあたり、事前に利用者の様子やサービスの実際、サービス評価などの資料と一緒に、「運営推進会議要望助言書」を送付し、市担当者や地域住民、家族等から意見をもらい、検討内容を報告している。また、外部評価の利用者家族と地域アンケートの回収率がほぼ100%に近く、日頃の事業所の取組みに対する家族や地域の評価の高さを窺うことができる。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	×	コロナ禍で行えていない。行っていた時はその都度、きちんと説明し、報告していた。	/	/	◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	×	コロナ禍で行えていない。行っていた時は必ず意見交換を行い、サービス向上に活かし、それについての結果も報告していた。	/	◎	◎	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	コロナ禍で行えていない。行っていた時は出席しやすい日程調整をしていた。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	×	コロナ禍で行えていない。行っていた時は内容をまとめ、公表していた。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念をつくり、掲示し、全職員で認識を持ち、実践に取り組んでいる。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	ホールにも掲示し、分かりやすくしている。	○	◎		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	必要な研修を受けられるよう取り組んでいる。				代表者は法人の医師であり、訪問診療などで事業所へ来訪する機会も多く、職員とも気さくに話しをしている。法人・事業所として、職員のスキルアップや資格取得にも協力的なほか、希望休や有給休暇の取得も推進している。職員は、「働きやすい職場と感じている」ものの、一方でストレスを軽減するための工夫の必要性を指摘されており、管理者は新入職員には個別面談ができていないものの、定期的に全ての職員と個別面談ができていないため、必要性を実感している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	必要な研修案内をし、スキルアップに取り組んでいる。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	個々の状況を把握し、働きやすいよう努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	×	コロナ禍であまり行えていない。行える時はGH連絡協議会などの研修に参加し、交流する機会をつくるようにしている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	×	ストレスを軽減することは工夫が必要。		◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	虐待に関する資料、記事を回覧するなどし、理解するようにしている。				虐待や不適切なケアについては、定期的に学ぶ機会があり、日々職員同士で注意し合いながらケアに当たっている。管理者やユニット長などが参加する責任者会議の中で、職員からの報告やリーダーが発見した事例について検討している。また、検討した内容はユニット間でも情報交換するほか、業務カンファレンスの中で話し合い、全ての職員が共有できるようにしている。また、事業所には、身体的拘束等の適正化のための指針があり、職員は理解できている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	その都度、ケアについて相談している。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	見過ごされることのないよう注意し、不適切なケアがあった時には報告、相談し、対応している。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	態度などの変化に気をつけている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束防止のファイルもあり、資料を閲覧し学び、理解している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	現場の状況を見て、その都度話し合っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	説明し、理解を図っている。やむを得ない場合についてもきちんと説明している。				

愛媛県グループホームせと

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	ファイルがあり、いつでも学習できるが、十分な理解はできていない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	必要な情報提供を行い、相談にのる支援をしている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	包括や専門機関との連携体制を築いている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	対応マニュアルを作成し、周知するようにしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	実践を身につけるようにはしているが、定期的には行っていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書、ヒヤリハットを記録に残し、カンファレンスで話し合いをし、再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	カンファレンスで話し合い、検討し、事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成し、その都度、対応などを検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情があった場合には、すぐに対応し、必要時は市にも相談している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	対策案や改善を速やかに返答し、よい関係が保てるようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	直接お話しするなどし、機会をつくっている。			○	利用者からの意見や要望については、重度の利用者が多く訴えが少ないため、職員が聞き取って対応している。家族には電話連絡時に声をかけるほか、介護計画の説明時にも意見や要望等を自由に書いてもらうようにしている。職員から出された意見や提案については、業務カンファレンスの中で検討しているが、管理者は職員一人ひとりと個別に話し合う機会の必要性を感じており、定期的に個別面談を実施するなどの取組みを期待したい。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	要望等ある時はお話しし、機会をつくるようにしている。		◎		
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	相談できる窓口の情報提供を行っている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	毎日、現場に来られるので話す機会はある。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	意見、相談などを聞き、検討している。				

愛媛県グループホームせと

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	全職員で取り組んでいる。				外部評価の自己評価は全ての職員で取り組んでおり、訪問調査日には全ての職員が作成した自己評価の綴りを確認することができた。評価結果と目標達成計画は、市担当者や地域包括支援センター、運営推進会議のメンバーに報告している。また、家族には、各ユニット長が外部評価の結果をまとめた分かりやすい総評を作成のうえ報告をしている。さらに、目標達成計画への取り組み状況についても、運営推進会議の中で報告するほか、確認などのモニターをしてもらっている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	課題を明らかにし、意識統一、学習の機会とし、活かすように取り組んでいる。				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価結果を踏まえ、計画を作成し、事業所全体で取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価結果など報告している。	○	◎	◎	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	取り組み成果を報告し、確認している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	マニュアルを作成しており、周知するようにしている。				地域住民や消防署とも連携を図りながら、年2回の避難訓練を継続して実施している。現在のコロナ禍において、地域住民等が参加した合同訓練はできていないものの、地域との協力支援体制は確保できている。また、訓練予定は前もって地域住民などに報告し、家族にも訓練開始と終了の報告もできているが、利用者家族アンケートの結果からは、家族の理解が乏しいことが窺える結果となっている。さらに、事業所内には、「消防用設備位置および避難経路図」が貼られてあり、万が一の場合にも、消防署員や地域住民などに分かりやすく表示している。コロナ禍の終息の際には、家族にも避難訓練への参加協力を呼びかけるなど、実際の重度の利用者の避難について、理解してもらえるよう工夫を望みたい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	さまざまな想定を行い、避難訓練している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に点検し、期限切れになっている物は交換するようにしている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	コロナ禍であり行えないが、消防、地域との協力体制をとっている。	△	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	△	コロナ禍であり行えていない。できる時は自治会などに参加し、災害対策に取り組んでいる。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	○	認知症ケアの実践を地域の方へ報告したりしている。				近隣住民の葬儀に参列するなど、交流も多く地域に根ざした事業所として周知されており、近隣住民からの相談支援にも取り組んでいる。現在はコロナ禍のため途絶えているが、事業所では認知症カフェの開催や地域のイベントへの参加・協働の実績もあり、コロナ禍の終息の際には再開できることを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	必要時、相談支援を行っている。		◎	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	×	コロナ禍で行えていない。行っていた時は認知症カフェを実施していた。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	受け入れに協力している。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	×	コロナ禍で行えていない。行っていた時は地域のイベントなどに参加し、協働していた。			○	



(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 7 月 7 日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 24名	(依頼数) 25名
地域アンケート回答数	10名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3870102120
事業所名	グループホームせと
(ユニット名)	たんぽぽ
記入者(管理者)	
氏名	住吉大輔 黒田ひとみ
自己評価作成日	令和 3年 3月 31日

<p>【事業所理念】 明るく 楽しく 穏やかに</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 1、特に排泄に関する場面について、プライバシーに配慮した言葉がけや対応を行うため、ユニット内で現状の把握と改善点を話し合いを行った。日々のケアで具体的にどのように対応するか、言葉がけの方法を決め、実践している。 2、個別面談の開催については全職員とはならず、新人職員・計画作成担当者等、優先順位が高いと定めた職員のみにとどまっている。目標管理シートを活用し、9月・3月には全職員対象に面談を行いたい。 3、地域の認知症ケアの拠点としての機能を果たせるように、認知症カフェの開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、開催を見合わせた。地域の役員会等も中止となっており、コロナ禍においても認知症ケアの拠点としての機能を果たせるように取り組みを検討していきたい。 4、食事に関して楽しめる場面を作るため、外注サービスを利用しながらメニューを選んでいたり、希望の食事を伺い、そのメニューを提供できる場面が増えている。おやつなどでも、おはぎ作り・ケーキのデコレーションなどを利用者と一緒にやっている。 5、ユニット玄関の電子ロックについては、ユニット内で電子ロックの使用について話し合い、現在、日中の活動時間において電子ロックを使用していない。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 国道近くの立地条件の良い場所に事業所は建っているものの、周辺には田園風景が広がり、静かな環境となっている。事業所の広い敷地には、びわや桃などの果樹が植えられ、収穫を楽しむイベントがあるほか、東屋も建てられているなど、利用者や地域住民の憩いの場となっている。事業所の開設当初から町内会とも協力関係を構築し、地域に根ざした活動を積み重ねている。事業所は開設して21年目を迎え、利用者の高齢化とともに重度化が進んできており、事業所の敷地内の家庭菜園などの活用がなくなっているものの、利用者が閉塞感をもたないように、自身の持っている力を発揮しながら、職員が自由で穏やかな暮らしが送れるよう支援している。また、医療法人の利点を活かして、事業所には複数の看護師を配置し、24時間の医療連携体制を整備して看取りケアにも力を入れている。コロナ禍で面会もままならない状況にあるが、職員は電話や手紙で丁寧に利用者の状況を報告し、家族の信頼を得ることができている。</p>
---------------------------------	--	---

## 評価結果表

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1)ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	入居時にフェースシートに記入してもらい情報を収集したりご家族やご本人に希望を聞き意向の把握に努めている	○	/	○	入居時に、職員は利用者や家族から思いや暮らし方の希望などを聞き取りをしているほか、フェイスシートにまとめて記載し職員間で情報共有をしている。また、日々の生活の中でも、職員は利用者から希望を聞いたり、表情などから汲み取ったりするなど、新たに得た情報は追記している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	入居自に希望・意向を本人・家族から聞いたり、その都度、希望・意向を聞いている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時に様子を知らせたり、ご家族から入居前の暮らしぶりをきいたりして、ご本人の思いを話し合う機会がある。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	生活支援記録に記録している。会話はご本人の言葉で記録し、行動もそのままを記録して、アセスメントに役立てている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	ご本人の立場になって考えるよう心掛けている。何かあれば話し合いの場をもっている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居前の情報や入居時にフェースシートをご家族に記入してもらい、情報の収集につとめている。また、面会時に来られた方にも話を聞くようにしている。	/	/	○	入居に際して、職員は利用者や家族からこれまでの暮らしや生活歴などの聞き取りをするほか、記載してもらうこともある。また、今までに関わってきた関係者などから、これまでの介護サービス利用の経過などの情報を得ることができている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	入居前などの情報を参考にし、日々の生活を観察しながら話し合いをし、現状の把握につとめている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	不安や不安定になった時の様子を知り、記録に残し、申し送りで報告するなど、把握に努めている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	◎	状況を把握し、アセスメントしカンファレンスで話し合うようにしている。話し合ったことは、職員で共有し把握している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	ご本人やご家族からの情報や日々の様子からカンファレンスし、ケアプランに取り入れている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	カンファレンスでは、ご本人の立場になり考え検討している。	/	/	◎	利用者や家族から聞き取った情報や、日々の関わりの中から職員が得た情報をもとにして、日々の申し送りやカンファレンスの中で話し合い、利用者の視点でのサービス内容を検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	意向や日頃の様子からアセスメントし、ケアカンファレンスの中で、検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ご本人にとって何が必要か常に考え、モニタリング・アセスメントにより課題を明らかにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームせと

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ご本人やご家族の思いや意向を取り入れたケアプランの内容にしている。また、ケアプラン見直しの際には、意向の確認をとっている。	/	/	/	介護計画は、利用者や家族から思いや意向を聞いているほか、計画作成担当者のみの視点にならないよう原案についても、前もって家族に説明して意見をもらっている。また、出された意見をもとにして、ケアカンファレンスの中で話し合い、職員の意見やアイデアを反映して、介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	毎回、話し合いに参加されるわけではなく、。面会時にお話ししたり、意向・意見を事前に聞きカンファレンスを開いている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	ご家族の情報をもとに、好きなことを取り入れたりしているが、なかなか慣れ親しんだ暮らしに繋がることは難しい。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	地域が計画に盛り込まれることは少ないが、ご家族に協力して頂けることは、計画に盛り込むようにしている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	それぞれのユニットでは、カンファレンスなどで、把握しているが、閲覧できるようにしている。	/	/	○	利用者一人ひとりの介護計画の内容は、カンファレンスの中で話し合い、職員間で情報共有できている。また、介護計画の要約はカードにまとめて、記録の際には確認できるようにしている。また、日々の暮らしの様子のほか、利用者が具体的に発した「痛い、痛い」などの言葉も生活支援経過記録に記載されている。さらに、職員の気づきやアイデアなども、個別に記録して職員間で共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	毎月、モニタリングをしており、アセスメントに活かしている。3ヶ月に一度計画の修正を行って日々の支援につなげている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	日々の様子や支援した事柄は支援経過記録に記載している。内容が分かりやすいように、それぞれアンダーラインで色分けしたり、○で囲んだりしている。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	詳しく記載されており、気づきについても考察をふくめ記載されている内容もある。	/	/	◎	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	基本3か月ごとに見直しをしている。退院や更新に合わせて見直しを行っている。	/	/	/	◎ 事業所では、ユニット毎に「ケアプランチェック表」を作成し、一人ひとりの様々な情報を確認しやすくなっている。介護計画は、3か月に1回を基本として見直しをしている。介護計画の変更か所は赤色と、機能向上に関するものは青色で記載し、家族への計画変更の説明時にも分かりやすいように記載している。また、事業所では、毎月モニタリングを実施し、利用者の現状を確認できている。さらに、利用者の状態に変化が生じた場合には関係者で話し合い、介護計画の見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月、職員がモニタリングシートでモニタリングをし、現状確認を行っている。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	入退院など、状態の変化の際には、その都度アセスメントし、ご家族や関係者と話し合い計画の見直しをしている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月、ケアカンファレンス・業務カンファレンスを開いている。	/	/	/	◎ 毎月、各ユニット毎に業務カンファレンスとケアファレンスを実施している。緊急案件があった場合には、出勤職員でその都度話し合いをしている。定期会議にはできる限り多くの職員が参加できるよう調整しているが、参加できなかった職員には会議録を確認してもらうほか、申し送り時に伝達して情報共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	意見が出しやすいような雰囲気作りを工夫している。以前より意見交換できている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	多くの職員が参加できる日をえらんだり、ケアカンファレンスと業務カンファレンスを一緒に行っているが、夜勤専従の職員はなかなか参加が難しい。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議録を閲覧したり、責任者から説明したりしている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送り簿を使用し、申し送りで確実に申し送り出来るようにしている。	/	/	○	「介護業務日誌」や「ケア業務伝達申し送り簿」を活用して、勤務帯ごとに申し送りを実施している。日誌などには、職員の確認欄があり、確認後にはサインをする仕組みをつくり、確実な申し送りにつなげている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	経過支援記録は目を通すようにしている。業務日誌や申し送り簿で伝達したい事柄を記入し口頭でも伝えるようにしている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	利用者に希望を聞いたり、確認を取ったりし、実行しているが、希望に添えないこともある。	/	/	/	高齢や認知症の進行などにより、思いや意向を自分で伝えられない利用者も多いが、職員は二者択一で洋服を選んでもらったり、好みのおやつや飲み物を選んでもらったりするなど、可能な限り利用者自身で自己決定できるよう工夫している。訪問調査日には、リビングにある2台のテレビで利用者がそれぞれ違う番組を見たり、脳トレや読書をしたりする利用者を見ることができ、一人ひとりが思い思いの場所で自由に過ごされている様子を窺うことができた。また、事業所では利用者の白髪染めをしたり、好みの話題を提供して話し相手になったり、利用者の希望や楽しみを推し量りながら、より良い支援ができるよう努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	可能な限りその都度自己決定していただいている。(入浴・飲み物・食べ物・洋服等)	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	自己決定できるかたには、その都度決めていただいている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	可能な限りご本人のペースを優先している。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	体操やレクリエーションなどで活き活きとした表情が見られる。職員との会話など楽しみを増やせる様になっている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情などから本人になって思いや意向を考えるようにしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	所内研修で学んでいる。声のかけ方や名前の呼び方など気をつけているが、関係性が長くなると、失礼があったのではないかと思う事がある。	/	○	◎	○
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	ご本人を傷つけないような言葉かけや接し方に気をつけているが、排泄に関して配慮されていないと感じることがある。	/	/	/	○
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	戸を閉めるタオルで隠すなどプライバシーには配慮しているつもりだが、トイレの声かけなど配慮が足りないこともある。	/	/	/	○
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室にはいる時にはノックしたり、「入っていいですか?」と声を掛けるようにしている。	/	/	/	○
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報保護の書類にサインしており、入職時に説明を受けている。	/	/	/	/
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	コミュニケーションをとりながら、傍に寄り添い信頼関係を作っている。食事の準備・片付け・洗濯など一緒にしたり、アイデアを聞いたりする。感謝の気持ちを忘れないようにつづけている。	/	/	/	職員は利用者同士の関係性を把握し、認知症状などから多少の摩擦が生じることもあるが、職員が間に入り関係改善に努めている。また、他の利用者の行動が気に入り、攻撃的になるような場合には、職員が配席を変えるなどの配慮もしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者様同士で心配されたり、手を貸したりする場面がある。また、職員が間にはいって場面作りをすることもあつた。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらつた場面をつくる等)。	○	注意深く見守るようにし、必要に応じて職員が間に入り、良い関係が保てるようにしている。助け合つたり話したり、和む場面もある。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が間に入り、それぞれの思いに耳を傾けるようにし、大きなトラブルにならないようにしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	ご本人やご家族から情報を得て、把握している。また、面会に来られた方にも、ご関係を聞いています。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ご本人やご家族との会話の中で、馴染みの地域のことや、それまでに関わってきた地域のことなど知ることが出来る。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	現在は面会は難しいが、ご家族の許可をえて電話などでおつたえするようになっている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	コロナ禍の為条件を設け面会してもらっている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナで外出は難しいが、天気の良い日には、外でおやつを食べたり、散歩したりする。	○	◎	○	現在のコロナ禍において以前のような外出はできていないが、天気の良い日には近所を散歩したり、中庭の東屋でおやつを食べたりするなど、利用者が外気に触れて気分転換ができるよう工夫している。重度の利用者も体調を見ながら、屋外に出て日光浴をするなど、戸外に出られる時間をつくっている。以前は、敷地内の家庭菜園で野菜づくりなどを楽しんでいた利用者もいたが、高齢化や屋外の暑さに伴い、現在は使用しなくなっている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナで外部者ご家族との外出は控えてもらっている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	体調やお天気を見ながら、日光浴をしたりしている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	コロナ禍で難しい。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症については、研修しているが、一人一人違うため、何故そうなのかと常に考えるようにしている。また、カンファレンスで共有し、話し合っている。	/	/	/	心身機能・生活機能アセスメント表を活用して、職員は利用者一人ひとりをチェックし、利用者のできることを把握している。把握した内容は介護計画の目標などにも位置づけ、職員は利用者自身でできることを継続してけるよう、見守りながら支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の出来る事出来ない事の機能低下は日々の生活の中で把握している。出来る事はご本人にして頂いている。また、体調や声を掛けるタイミングで出来る事が違うので、病態・性格・経験など加味して出来る事を継続出来るようにしている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来ることは利用者自身でもらっている。声掛けや少しの手助けなど、その場で判断することもある。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	楽しみや好きなことを把握し、希望を聞きながら、職員と一緒に出番が出来る場面作りをしている。	/	/	/	おやつ作りや洗濯物たたみなど、職員は利用者のできることで得意なことができるよう支援している。また、テレビを見たり、脳トレや読書をしたりするなど、事業所では利用者の楽しみにしていることをやってもらえるよう支援しながら、一人ひとりが張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう取り組んでいる。季節に応じて、さくらんぼや桃の花などを背景にして、写真の撮影会をすることあり、利用者や家族から喜ばれている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	裁縫・調理の準備・食器拭き・洗濯など出来る行為の中や、テレビや音楽など希望を聞きながら役割や出番があるようにしている。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の中での出番作りは難しい。地域行事に参加したり、挨拶したりすることはある。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	女性は、女性らしい身だしなみを心掛けています。ご本人やご家族に話を聞いたり、選んだものなどから好みを把握している。				利用者の高齢化などに伴い、多くの利用者は毎朝職員が着替えなどの介助が必要で、選択範囲を絞ったり、「この服の色でいい」と声かけをしたりしながら、整容をしている。利用者から要望が出され、職員が白髪の毛染めの支援もしている。毎朝、美容液などをぬる利用者もいる。また、長年の生活で介護度が高くなった利用者も多くいるものの、病院受診などの外出時には必ず着替えたり、職員が家族と話して、好みの服を持って来てもらったりするなど、少しでも本人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	洋服などは選んでいただいたり、女性は女性らしく、男性は男性らしく整えられるよう支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	ご本人が決定出来ない場合は、ご家族から好みなど聞いて確認している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	パジャマで過ごすことなく、毎朝着替えてもらっている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	ご本人の気持ちを傷つけないよう、さりげなく声をかけ直してあげたりする。こっそり居室へ行って、直してあげたりする。寝たきりの方は、こまめに顔を拭いたりしている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	希望があれば、訪問の美容室にお願いで施設で散髪してもらっている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	ご本人に合う服装や色をえらんでいる。また、髪をいったりひげをそったり、整容にきをつけている。				
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	口から食べることの大切さ、食の楽しみ、見た目の楽しさを理解している。				献立や食材は2か所の業者を利用し、職員がアレンジをしながら1か月分の食材をまとめて発注して配達してもらうほか、職員が不足分の食材やおやつなどの買い出しもしている。調理の下ごしらえやおやつのお盆ふきなど、利用者のできることを手伝ってもらいながら、各ユニットで職員が調理している。献立づくりの際には、業者の利用を止めて利用者の好みや希望を取り入れて調理することもあり、訪問調査日は七タと重なり、手作りのちらしずしに星型の錦糸卵を飾る演出がされており、季節を感じる事ができた。食器類は、自宅から使い慣れたものを持参している利用者もいるものの、事業所では利用者の状況に合わせて、使いやすい物を用意している。現在のコロナ禍において、職員は見守りや食事介助などのサポートに徹し、利用者と一緒に食事をしていないが、「職員と一緒に食べることで、利用者の食事への意欲がわいていたのではないかと考察している。また、調理の匂いや雰囲気はリビングに面したキッチンから漂っており、職員から利用者へ「今日はお寿司ですよ」と声かけしている様子も見られた。献立に関して栄養士のアドバイスは受けてものの、事業所では利用者一人ひとりの栄養スクリーニングを実施しており、食べやすい物や調理方法などを工夫している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者ともに行っている。	△	買い物・献立作り・調理は作る職員がおり、行っていない。調理の準備や、後片付けはできる方が少なく、一緒にすることが難しくなっている。			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	後片付けや時々調理の準備をしていたが、やくに立ったと自身に繋がっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	ご本人やご家族に確認しているが、調理方法や味付けなどで食べられなかったり食べたりするので、職員で情報を伝達し共有するようにしている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	○	食事は業者に注文しているが、苦手な物があれば、食事を出す前に違う物に変更したり、取り除いたりしている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いりどりや器の工夫等)	○	嚥下困難な方にはミキサー食、咀嚼が困難な方には、刻み食と、その方に合わせた食事形態にしている。味や見かけなど考えながらいたり、食べられない食材は違うものに変更したり美味しく食べられるよう工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	使い慣れた物が良い方はそれを使っていたりしている。施設の方で準備した物も、個人専用になっている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	その時の状況にもよるが、同じ食卓を囲んで一緒に食事をし介助している。昼食時は一緒に食事できるが、朝食、夕食は利用者様のみの食事となっている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音や匂い、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事の準備の音や匂いが常にあり、食事前には手を洗いに行ったり、食卓を拭いたりもうすぐ食事だという雰囲気作りをしている。		○	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	利用者一人一人の栄養状態を把握し、主治医とも連携をしながら、必要な措置をとったり、飲み物はお茶だけでなく好みの物が飲めるようにしたり、補食を準備したりしている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	水分が摂れない時には、飲み物を変えたり、時間をおいて勧めたりしている。食事量が少なく栄養状態が良くない方には、栄養剤を飲んで頂いたりしている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立は調理の職員が作成しているが、季節の物や食べやすい物を取り入れている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	衛生管理は徹底している。勉強会を開いている。ハイターでの消毒や、賞味期限の管理、台所での業務の前の手洗いなど安全管理に努めている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	歯科衛生士による研修を行っている。また、歯科衛生士にきてもらい、口腔ケアを行ったり、指導をしてもらっている。ケアプランにも入っており、職員も力を入れている。	/	/	/	毎食後口腔ケアを実施し、自分で歯磨きなどができる利用者についても、職員が口腔内の状況を確認するようにしている。事業所では、毎食後の口腔ケアが習慣化しており、できる部分はうがいのみでも自分で行えるよう支援しながら、日常的に口腔内の清潔を支援している。また、定期的に歯科衛生士による口腔内のアセスメントのための訪問があり、職員間で情報共有してケアに活かしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	食事の後は、職員が口腔ケアを行っており、義歯の不具合など異常に気付くことができている。歯科の受診の結果や、歯科衛生士による口腔ケアの結果を共有している。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	口腔ケアに入ってもらっている歯科衛生士に研修をしてもらっている。分からないことがあれば、日常的に質問したり、指導してもらっている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	食後には義歯を外し洗浄している。夕食後には義歯を洗浄し、消毒している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	毎日習慣化することで、食後の一連の行為になっている。自分で出来る方はして頂いている。	/	/	◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	異常があれば、訪問歯科医に診察をお願いしたり、相談したりしている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	排泄の自立を目指すことは重要と考えている。自尊心に配慮して声掛けをしたり、トイレは誘導している。	/	/	/	事業所では、利用者がトイレで用を足すことを基本として支援している。日中は、重度の利用者も可能な限り、2人体制の介助でトイレへ行けるよう支援している。夜間にはポータブルトイレを設置し、排泄支援をしている利用者もいる。また、布パンツで過ごしている利用者もおり、おむつや紙パンツなどの排泄用品は職員間で必要性を検討し、利用者や家族の理解を得たうえで使用している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	様々な原因が考えられ、与える影響についても把握している。その人によって違いがあることは理解しており、職員間で共有している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	パターンは、表に記録しており、職員も把握している。排便前などの様子も職員で共有している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	トイレで排泄できるよう支援している。オムツ類は一人一人必要な物を話し合っ決めていく。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	認知症の症状が及ぼす影響を十分に理解した上で、不安なく誘導したり、入浴や食事のタイミングなど、話し合っ工夫している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	その方のパターンを考えながら、サインをも逃さないようにしたり、早めの声掛けを行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	尿量などを考慮しながら、パットなど選択したり、紙オムツやパンツの交換までに至らないよう工夫しているが、職員だけで決めずご家族に相談している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	日中、夜間の活動の仕方、立位が可能な場合など考慮し検討している。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	牛乳、飲むヨーグルト、ヤクルトなど飲み物を工夫し排便を促せるようにしたり、腹部をマッサージしたり工夫している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	◎	一定期間の感覚や希望を考慮しながら、支援している。汚染等により、必要な際にはその時に、入浴やシャワーをしている。	◎	/	○	身体状況や浴室設備の関係で、湯船に浸ることができる利用者は少なく、ほとんどの利用者はシャワー浴での対応をしている。身体が温まるよう脱衣所の暖房や足浴しながら、職員は利用者が3日に1回入浴できるよう清潔保持に努めている。また、職員体制の関係で、午後の入浴となっているが、利用者の汚染時などには柔軟に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	ゆっくり焦らず、時間をかけられるよう支援している。入浴剤などで、気分を変えて入浴される時もある。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	ご自身で洗身できる方は行っていただいている。一部介助したりと、その方に合わせて介助している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	声かけの言葉や、時間、タイミングなど、工夫しながら誘導し、気持ちよく入浴できるよう支援している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前にバイタル測定したり、体調など考慮し、職員同士協議して入浴を決定している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜勤の記録、申し送り、それまでの生活状況をとらえたうえで、把握している。	/	/	/	職員は、睡眠導入剤や安定剤のリスクを承知しており、眠れない利用者には日中の活動を見直したり、リビングでテレビを見て過ごしてもらったりするなど、可能な限り薬に頼らない支援に努めている。高齢化や重度化により、日中もベッドで寝ている利用者もいる。また、認知症状の進行などにより、昼夜興奮して叫ぶなどの利用者の状況や必要性に応じて、主治医と相談のうえ対応している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	眠れない利用者様の原因を探り、入浴時間・日中の活動など工夫しているが、それでも眠れない方もいらっしゃる。必要に応じて専門医の協力や指示を得ている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	安易に睡眠薬に頼ると転倒等のリスクが高まる事を、職員は把握しているので、活動や入眠時間を考えたりして工夫している。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	個々の体力や体調に応じて、適宜休息をとって頂いている。また、規則正しく時間を過ごせるように起床を促している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	ご家族にお話しし、時間など考慮しながら、電話して頂いている。手紙のやり取りは困難な方が多いが、職員からの手紙の一部にご本人から、一言記入して頂くこともある。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	子機等を使用しながら、ご家族と話す機会を設けることはある。毎月のご家族への手紙や年賀状など手紙の一部にメッセージを、職員がお手伝いしながら書いて頂くこともある。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	ご自身で携帯をお持ちの方もある。また、電話を取り次いだりし、気兼ねなく電話して頂いている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙は、ご本人にお渡ししている。返事を書かれる方は少ない。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ご本人から電話をかけることについては、ご家族に話をしている。仕事をされている方が多いので、よい時間などお聞きし、電話して頂いている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お財布を持ちたいと言われる方には、少額ではあるが、持って頂くこともあるが、ほぼ、お小遣いとして、金庫に預かっている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	ご家族が購入されることが多く、ご自身がお金を使う機会は少ない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	日常的に買い物されることはほとんどない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	ご家族の理解、協力により、少額のお金を持つこともあるが、ほぼ使うことがない。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	大半は金庫でのお小遣いの預かりであるが、お金を持っておきたい方もいるので、ご家族と相談して少額を持って頂いている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	金銭管理は、規程に基づき管理している。出納帳を定期的にご家族に確認して頂いている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	できる限りニーズに合った対応をしている。また、障害サービスを継続的にサービスが利用できるよう支援したり、寝台が必要な場合には、介護タクシーを利用出来るように支援している。	◎	/	○	行きつけの美容室に出かけたり、マッサージなどの外部サービスの利用ができるよう手配したりするなど、利用者や家族のニーズに柔軟に対応している。法人の医師が、ほとんどの利用者の主治医となっているが、外部の医療機関の受診時にも、状況に応じて職員が送迎や同行支援をすることもある。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	門はいつも開放しており、地域の方やご家族にも入って頂いている。	◎	◎	○	事業所の敷地前にある門は、来訪者が入りやすいよう開放されている。中庭には洗濯物が干してあり、生活感があって親しみやすい雰囲気である。玄関アプローチには、手入れされた鉢植えの花が咲いており、来訪者を迎えてくれている。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	ユニットごとで、ソファやテレビの位置を考えている。季節ごとに飾りを工夫し、季節感が味わえるよう工夫しているが、もっと整頓が必要である。	○	◎	○	各ユニットのリビングは広く、中央に食卓テーブルが並びキッチンに面している。キッチンなどから見えにくいスペースもあるため、室内用のカーミラーを取り付け、職員が利用者の状況を確認しやすくする工夫をしている。利用者や来訪者から、職員が食事の支度をしている様子がよく見え、家庭的な雰囲気となっている。各ユニットのフロアにはテレビも2台ずつ設置され、利用者一人ひとりが思い思いにソファでくつろげるようなスペースを確保している。共用空間は職員が毎日掃除しているほか、空気清浄機も設置され、清潔な空間となっている。また、利用者と一緒につくった七夕飾りが飾られ、利用者や来訪者に季節を感じさせてくれている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	明るい雰囲気である、臭いには気を付けている。					○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	食事を用意する音や、臭いなど生活感ある物に気を付けている。また、季節感のある、花の匂いや飾りにも工夫している。					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	利用者様同士が、楽しく過ごせる空間作りをしている。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	扉を開けないとトイレ内が見える場所もあるため、扉を開けて対応している。					
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	ご本人、ご家族の希望により、使い慣れた物や、飾り物、写真など部屋に置き、居室空間が満足いくようにして頂いている。	◎		○	居室には、エアコンとベッドが備え付けられている。居室に使い慣れたチェストなどを持ち込んでいる利用者もいるものの、基本的には車いすを使用している利用者が多く、動線を確保するためにもシンプルに片付けられている。また、家族の写真やお位牌を持ち込んでいる利用者もあり、一人ひとりが居心地よく過ごせるような居室づくりをしている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	それぞれの自立度に応じた居室環境にしている。PTイレや介助バーを設置したりしている。			○	ポータブルトイレに介助バーを設置して、安全に利用できるようにしたり、ベッドから居室の隣にあるトイレまで一人で安全に移動できるようにいすを配置し、手すり代わりに活用している居室もある。口腔ケアの用品を柔らかいスポンジに変えたり、カップを横広のスプーカップにすることで一人で飲めるようにしたりするなど、事業所では、利用者ができるだけ自立した生活が送れるよう様々な工夫をしている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	認知レベルに合った工夫を心掛けている。利用者様が不安になったり、困らないよう検討している。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	個々のこだわりや希望に応じて必要な物を使用して頂いている。(雑誌・文具・コップ・箸・茶碗など)					
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	入口に鍵をかけることはない。空気の入れ替えなどで入口を開けている場合もある。	◎	◎	◎	利用者が鍵をかけて自由に出入りできないことの弊害について、全ての職員が理解できている。玄関の施錠は、防犯のため夜間のみとし、ユニットの出入り口は昼夜通して開放されている。また、高齢や介護度の高い利用者も多く、外に出ようとする利用者は少なくなっている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	鍵を掛けない暮らしについては理解している。安全を考慮し必要になればご家族とも話し合い、了解を得て鍵を掛けるようにする。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	夜間は防犯上、施錠しているが、建物自体の鍵は、ユニットの入口は開放されている。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	フェイスシートやサマリーで情報を得ており、現病については、申し送りで十分共有している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	アセスメントやケアプランで、異常のサインやその際の対応について確認している。記録では、変化があれば分かりやすくマーカで色分けしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	常に看護職員や主治医に相談できる、体制である。重症化防止の為に、早めの処置ができています。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	看護職員を中心に受診状況を把握しており、主治医に相談してご家族の協力を得ながら受診している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	疾患に応じて、希望する医療機関を受診し、必要に応じて紹介を受けている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	主治医、看護職員から説明し、受診出来るようにしている。ご家族へお伝えすべき内容は、看護職員やユニット長が伝えている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時に職員が同行し、介護サマリーで情報を提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院中様子を見に行ったり、病院スタッフと連携し早期退院、帰所を目指している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	医療連携室を買い替えることが多い。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	看護職員を中心に相談しながら、主治医やかかりつけ医への情報提供を行っている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	看護職員が夜間緊急連絡体制を組んでおり連絡が取れるようにしている。主治医の協力も得やすい。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日頃から看護職員同志で情報交換しており、早期発見、治療に繋がっている。必要に応じて看護職員が主治医に相談、対応している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬情から職員はその内容を理解しており、申し送り、カンファレンスで情報交換している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	定期処方については、薬箱に個別に準備して、職員が間違えないよう、確認しながら服用して頂いている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	与える影響について申し送りで共有しており、確認している。日々の観察から、気になることがあれば主治医に相談している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	薬が与える影響や変化など、記録し主治医や看護師に報告している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時には確認しているが、必要があれば、その都度、確認をしている。その際には、主治医、看護職員から病態説明し、今後起こり得ることを含め、十分説明している。	/	/	/	事業所では、「最後まで、人間らしく、その人らしく、安らかに」を基本理念として、看取りケアを実施している。重度化した場合と、終末期のあり方については、家族を含め関係者で話し合い、方針を共有している。事業所では、医療や看護の24時間のオンコール体制が整っており、職員は安心して利用者に寄り添うことができている。また、重度化や急変時には病院への入院や特別養護老人ホームなどへの転院する利用者も多い。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	ご家族の考える終末期とケアする側、医療提供側での終末期の捉え方から方針を立て共有している。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	比較的、終末期ケアの経験職員が多いが、研修もを行っている。必要なプランが十分共有され主治医とも相談しやすいため、見極めやすい。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入居時に説明するが、その都度十分な説明をおこなっている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	主治医、看護職員、ご家族の意向を取り入れながら、検討し共有している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	ご家族には、十分な説明をしているが、意向を取り入れながら、ご家族に泊まって頂くなど、一緒に利用者様との時間が有意義なものになるよう支援している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	定期的に学習するが、感染症が拡大兆しがある場合には、再度、周知徹底している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	マニュアルがあり、それに添って対応できるように、感染の兆しがある時には再度確認している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	ニュース医療機関等からの情報により、発生の予防に努めている。発生した場合は最小限で収まるように周知徹底している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	テレビやインターネット等で情報を収集し、ご家族にも情報提供している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	玄関で手指消毒、マスク着用等来訪者にも協力を得ている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	利用者様の変化を報告したり、毎月、手紙で様子を知らせている。面会時には様子やエピソードなど伝えている。	/	/	/	現在のコロナ禍において、感染症対策で面会や外出制限が設けられているため、以前のように家族に呼びかけて、行事や催しに参加してもらうことができなくなっている。現在は家族会も中止し、面会も週1回の制限を設けているものの、玄関のガラス越しで電話の子機を活用して話ができるよう工夫している。日常の利用者の様子は職員から電話連絡のほか、手紙に写真を添えて伝えるようにしている。手紙は担当職員が毎月書いており、利用者の直筆の手紙を添えることもあり、家族から喜ばれている。事業所の生活も長くなり、家族から職員に「父の日のプレゼントを用意して欲しい」と頼まれて用意した事例もある。事業所の運営上の事柄や出来事については、運営推進会議録や「せと風だより」を家族に送付して理解を得るようにしている。また、職員の異動等についても事業所便りで伝えている。職員は、家族と気兼ねなく話ができる関係を築けており、電話連絡や来訪時を活用して、家族から意見や希望を聞いている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	希望があれば宿泊して頂いている。いつでも気軽に訪れられるような雰囲気作りをしている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	外出や催し物など、一緒に参加して頂いたり、面会時に散歩に行かれる方もいる。	/	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	広報、電話での報告がほとんどであるが、写真を送ったりしている。	/	◎	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	不安なことや、意向など確認しながら報告している。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	認知症の疾患の悪化など、考えられることを伝えながら、穏やかに関わり続けて頂けるようお願いし、理解頂いている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	広報や連絡う推進会議、面会時に報告している。	/	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	行事や家族会に参加して頂いている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	ケアプランの説明時にリスクも含めて説明している。具体策や限界があった場合の理解を得られるよう努めている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	◎	ユニット長が中心に働き掛けているが、職員とご家族が顔馴染みになることで、気軽に相談されている。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	十分な説明をしている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居の意思がある場合には十分な説明をし、希望先に移れるよう支援している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金改定時には、改定前に説明し、同意をえている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	設立前に地域の方への説明会を開き自治会に入り町内会の一員として、関わっていただいている。	/	◎	/	事業所は町内会に入っており、祭りや川の清掃など地域の様々な行事に参加したり、地域の幼稚園児や中学生との交流をしたりしている。敷地内にある以前デイサービスとして利用していた空きスペースを、近隣の幼稚園の建て替えに伴ってスペースを貸し出し、今年の5月頃まで幼稚園児の声などのにぎわいがあった。現在のコロナ禍において、地域住民との関わりをなかなか持てない状況となっているが、運営推進会議等での関わりは継続できているほか、年2回発行している「せと風だより」も地域に回覧してもらいなどの情報発信もしている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	町内会への参加も積極的にしている。日頃からあいさつをしたり、子供会の方も入りやすいようお祭りの際など一員として関わっていただいている。	/	◎	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	避難訓練等時には、参加を控えてもらっているが、気にかけて見守りして下さる。	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	用事の際には入ってこられるが、まだまだ気軽に立ち寄られることは少ない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	回覧版を回しながら、馴染みの関係に繋がっている。また、高齢者介護の事で悩まれる事案がある場合には、相談に来られる。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	現在は無いが、地域の方は、行事や訓練時の関わりが多い。ボランティアの方が長年来られていた。コロナ禍が収まれば再開したい。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	コロナ禍で外出は控えている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	コロナ禍で幼稚園などの訪問は控えてもらっている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	地域の方には必ず参加いただいている、ご家族にも案内を出して、少ないが参加して頂いている。	/	○	◎	コロナ禍で以前のような集合形式での運営推進会議が開催できなくなり、現在は書面での開催となっている。会議開催にあたり、事前に利用者の様子やサービスの実際、サービス評価などの資料と一緒に、「運営推進会議要望助言書」を送付し、市担当者や地域住民、家族等から意見をもらい、検討内容を報告している。また、外部評価の利用者家族と地域アンケートの回収率がほぼ100%に近く、日頃の事業所の取組みに対する家族や地域の評価の高さを窺うことができる。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	運営推進会議は文書で開催している。日頃の状況、活動状況は毎回、サービス評価についても報告している。	/	/	/	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	事業所の抱えている問題についても、地域の方に報告し、良い案を相談していきたい。	/	◎	◎	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	現在は控えているが、再開されれば、家族会を兼ねたり、研修会を計画したり地域の方やご家族にも興味のある内容、時間を検討したい。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	松山市には必ず公表、報告している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は分かりやすいものであり、共有することができている。個別のサービス計画に理念を盛り込み、モニタリングしている方もいる。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	とても分かりやすく伝えやすい。入居時、評価公表時に伝えている。	○	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	職員に合った研修の情報を提供し、支援している。	/	/	/	代表者は法人の医師であり、訪問診療などで事業所へ来訪する機会も多く、職員とも気さくに話しをしている。法人・事業所として、職員のスキルアップや資格取得にも協力的なほか、希望休や有給休暇の取得も推進している。職員は、「働きやすい職場と感じている」ものの、一方でストレスを軽減するための工夫の必要性を指摘されており、管理者は新入職員には個別面談ができているものの、定期的に全ての職員と個別面談ができていないため、必要性を実感している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	勉強会を開いたり、資料を配布したり、所外研修の勤務調整・研修費の支払いなどしている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	勤続年数、資格など考慮している。離職率は低く、働く環境については把握している。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	積極的にネットワーク作りをしている。職域を超えて関わっている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	毎日ではないが、現場をまわり、利用者様や職員の状況の把握に努めている。	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修を行っており、不適切なケアがないか、ケアカンファレンスで振り返るようにしている。	/	/	/	虐待や不適切なケアについては、定期的に学ぶ機会があり、日々職員同士で注意し合いながらケアに当たっている。管理者やユニット長などが参加する責任者会議の中で、職員からの報告やリーダーが発見した事例について検討している。また、検討した内容はユニット間でも情報交換するほか、業務カンファレンスの中で話し合い、全ての職員が共有できるようにしている。また、事業所には、身体的拘束等の適正化のための指針があり、職員は理解できている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	各ユニットで申し送りや自分のケアを振り返ったり、カンファレンスで協議している。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	ユニット長や管理者に相談したり、カンファレンスで話し合い、不適切なケアが見逃ごされないようにしている。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	体調管理に注意し、職員の話聞き、精神的な状況について管理者や代表者に報告し把握している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束について、話し合う機会も多く研修も行っている。禁止事項については、把握できている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	ケアプラン見直しの時期に合わせて、必要性・点検など検討し検討記録を作成している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	適宜、十分説明し、ご家族と相談している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	成年後見制度については、利用されている方もいたり、研修を開いたりしているが、日常生活自立支援についての理解は乏しい。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	希望があれば、資料を集め説明している。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	希望があれば制度について、説明し支援している。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを作成している。緊急対応時は、看護職員が中心になることが多いが、職員は経験を積み重ねる中で自然に動ける職員が多い。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	救命講習や緊急時の対応について研修をしている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故・ヒヤリハットについて、報告書を作成し、カンファレンスで対応策を協議している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ケアプランに取り入れられたり、申し送りや報告したりし、カンファレンスで話し合っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成している。苦情をそのままにしないよう対応している。代表者にも報告している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情に対しては、速やかに対応するように心がけている。今までに市役所等に報告するまでに至る事例はない。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	内容に応じて事業所内、ユニット内、法人全体といった形式で納得いくように話し合っている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	事業所の窓口は決定しており、契約時に説明しているが、ユニット責任者や職員に訴えることが多い。			○	利用者からの意見や要望については、重度の利用者が多く訴えが少ないため、職員が聞き取って対応している。家族には電話連絡時に声をかけるほか、介護計画の説明時にも意見や要望等を自由に書いてもらうようにしている。職員から出された意見や提案については、業務カンファレンスの中で検討しているが、管理者は職員一人ひとりと個別に話し合う機会の必要性を感じており、定期的に個別面談を実施するなどの取組みを期待したい。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	事業所の窓口は決定しており、契約時に説明しているが、ユニット責任者や職員に訴えることが多い。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約時の説明となっており、ユニットごとでユニット長が意見要望をきくことが多い。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	代表者は毎日足を運び関わっている。要望などもはなしやすい関係ができています。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	職員の話聞く機会はあるが、話し合う場をもうけていない。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	自己評価に取り組んでいるが、代表者は実施していない。				外部評価の自己評価は全ての全員で取り組んでおり、訪問調査日には全ての職員が作成した自己評価の綴りを確認することができた。評価結果と目標達成計画は、市担当者や地域包括支援センター、運営推進会議のメンバーに報告している。また、家族には、各ユニット長が外部評価の結果をまとめた分かりやすい総評を作成のうえ報告をしている。さらに、目標達成計画への取り組み状況についても、運営推進会議の中で報告するほか、確認などのモニターをしてもらっている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	改めてケアを見直す機会になっている。目標を決め、取り組んでいる。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	過大を抽出し、計画的に取り組んでいるが、日が経過すると忘れてしまうことがある。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議で報告しモニターしていただいている。	○	◎	◎	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議で報告している。計画が継続されず忘れがちになる。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	火災、地震、水害に関するマニュアルは作成しているが、十分周知されているとは言えない。訓練時マニュアルを見直さなければならない。				地域住民や消防署とも連携を図りながら、年2回の避難訓練を継続して実施している。現在のコロナ禍において、地域住民等が参加した合同訓練はできていないものの、地域との協力支援体制は確保できている。また、訓練予定は前もって地域住民などに報告し、家族にも訓練開始と終了の報告もできているが、利用者家族アンケートの結果からは、家族の理解が乏しいことが窺える結果となっている。さらに、事業所内には、「消防用設備位置および避難経路図」が貼られており、万が一の場合にも、消防署員や地域住民などに分かりやすく表示している。コロナ禍の終息の際には、家族にも避難訓練への参加協力を呼びかけられるなど、実際の重度の利用者の避難について、理解してもらえるよう工夫を望みたい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	消防訓練は年2回(1回は夜間想定)地震水害訓練は1~2年に1回行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	各ユニットに防災担当者があり、しよか設備点検及び非常時備蓄品避難時の持ち出し物品等の管理を行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	特に夜間想定訓練時に地域防災の方々に参加頂き協力、助言をいただいている。	△	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	最近では地域の防災訓練に参加できていない。				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	認知症ケアに関することは今年度発信できたと言いきいが、その他の研修など設けることはできた。				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	近隣の方が入院されたりすると意識して情報を得必要に応じて相談支援している。		◎	○	近隣住民の葬儀に参列するなど、交流も多く地域に根ざした事業所として周知されており、近隣住民からの相談支援にも取り組んでいる。現在はコロナ禍のため途絶えているが、事業所では認知症カフェの開催や地域のイベントへの参加・協働の実績もあり、コロナ禍の終息の際には再開できることを期待したい。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	以前は夏祭りなどで解放し、近所の方もたくさん来られたが、今では行っておらず活用されていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	中学校、高校の職場体験や、実習の受け入れを行っている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	事業所自ら企画するイベント等はないが、市町、地域包括支援センター等から依頼があれば、協力したい。地域のイベントには参加している。			○	



(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 7 月 7 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 24名	(依頼数) 25名
地域アンケート回答数	10名	

※事業所記入

事業所番号	3870102120
事業所名	グループホームせと
(ユニット名)	すみれ
記入者(管理者)	
氏名	住吉大輔
自己評価作成日	令和 3年 3月 31日

<p>【事業所理念】 明るく 楽しく 穏やかに</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 1、特に排泄に関する場面について、プライバシーに配慮した言葉がけや対応を行うため、ユニット内で現状の把握と改善点を話し合いを行った。日々のケアで具体的にどのように対応するか、言葉がけの方法を決め、実践している。 2、個別面談の開催については全職員とはならず、新人職員・計画作成担当者等、優先順位が高いと定めた職員のみにとどまっている。目標管理シートを活用し、9月・3月には全職員対象に面談を行いたい。 3、地域の認知症ケアの拠点としての機能を果たせるように、認知症カフェの開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、開催を見合わせた。地域の役員会等も中止となっており、コロナ禍においても認知症ケアの拠点としての機能を果たせるように取り組みを検討していきたい。 4、食事に関して楽しめる場面を作るため、外注サービスを利用しながらメニューを選んでいたたり、希望の食事を伺い、そのメニューを提供できる場面が増えている。おやつなどでも、おはぎ作り・ケーキのデコレーションなどを利用者と一緒にやっている。 5、ユニット玄関の電子ロックについては、ユニット内で電子ロックの使用について話し合い、現在、日中の活動時間において電子ロックを使用していない。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 国道近くの立地条件の良い場所に事業所は建っているものの、周辺には田園風景が広がり、静かな環境となっている。事業所の広い敷地には、びわや桃などの果樹が植えられ、収穫を楽しむイベントがあるほか、東屋も建てられているなど、利用者や地域住民の憩いの場となっている。事業所の開設当初から町内会とも協力関係を構築し、地域に根ざした活動を積み重ねている。事業所は開設して21年目を迎え、利用者の高齢化とともに重度化が進んでおり、事業所の敷地内の家庭菜園などの活用がなくなっているものの、利用者が閉塞感をもたないように、自身の持っている力を発揮しながら、職員が自由に穏やかな暮らしが送れるよう支援している。また、医療法人の利点を活かして、事業所には複数の看護師を配置し、24時間の医療連携体制を整備して看取りケアにも力を入れている。コロナ禍で面会もままならない状況にあるが、職員は電話や手紙で丁寧に利用者の状況を報告し、家族の信頼を得ることができている。</p>
---------------------------------	---	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1)ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	入居時にフェースシートに記入してもらい情報を収集したり、ご家族やご本人に希望を聞き意向の把握に努めている	○	/	○	入居時に、職員は利用者や家族から思いや暮らし方の希望などを聞き取りをしているほか、フェイスシートにまとめて記載し職員間で情報共有をしている。また、日々の生活の中でも、職員は利用者から希望を聞いたり、表情などから汲み取ったりするなど、新たに得た情報は追記している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	ご家族から話を聞いたり、入居前の情報や、その都度希望・意向を聞き、ご本人の立場になって考え協議している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時に様子を知らせたり、ご家族から入居前の暮らしぶりをきいたりして、ご本人の思いを話し合う機会がある。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	生活支援記録に記録している。会話はご本人の言葉で記録し、行動もそのままを記録して、アセスメントに役立っている。その情報をカンファレンス等で共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	自分たちなら・家族ならどう思うか。というように、ご本人の目線に立つよう心掛けている。ご本人やご家族の立場になって考え話し合いをしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居前の情報や入居時にフェースシートをご家族に記入してもらい、情報の収集につとめている。また、面会時に来られた方にも話を聞くようにしている。	/	/	○	入居に際して、職員は利用者や家族からこれまでの暮らしや生活歴などの聞き取りをするほか、記載してもらうこともある。また、今までに関わってきた関係者などから、これまでの介護サービス利用の経過などの情報を得ることができている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	入居前などの情報を参考にし、日々の生活を観察しながらアセスメントをし、そこから話し合いを重ね現状の把握につとめている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	起こった事案について、状況・ご本人の様子など観察し記録したり、申し送り、カンファレンスで伝達し、職員で把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	状況を把握し、アセスメントしている。一人のスタッフの意見にならないようにカンファレンスで話し合うようにしている。話し合ったことは、職員で共有し把握している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	ご本人やご家族からの情報や日々の様子からカンファレンスし、ケアプランに取り入れている。また入居当初のサービス計画に情報の収集をサービス内容として入れている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	カンファレンスでは、ご本人の立場になり何がベストなのかを考え、計画作成者のみの視点にならないよう、ユニットスタッフが参加し検討している。	/	/	◎	利用者や家族から聞き取った情報や、日々の関わりの中から職員が得た情報をもとにして、日々の申し送りやカンファレンスの中で話し合い、利用者の視点でのサービス内容を検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	意向や日頃の様子からアセスメントし、ケアカンファレンスの中で、検討している。また、認知症実践者リーダ一研修修了者が加わり、意見、助言を受けるようにしている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ご本人にとって何が必要か常に考え、本人はどう思っているのかモニタリング・アセスメントにより課題を明らかにしている。認知症や基礎疾患が重度な方が多いため健康に関する課題が一番になりやすい。	/	/	/	

愛媛県グループホームせと

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ご本人やご家族の思いや意向を取り入れ、ご本人の尊厳を考えたケアプランの内容にしている。また、ケアプラン見直しの際には、意向の確認をとっている。	/	/	/	介護計画は、利用者や家族から思いや意向を聞いているほか、計画作成担当者のみの視点にならないよう原案についても、前もって家族に説明して意見をもらっている。また、出された意見をもとにして、ケアカンファレンスの中で話し合い、職員の意見やアイデアを反映して、介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	毎回、話し合いに参加されるわけではない。面会時にお話ししたり、意向を聞いたりし、意見をいただき反映できるようにしている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	ご家族の情報をもとに、好きなことを取り入れたりはしているが、なかなか慣れ親しんだ暮らしに繋がることは難しい。その瞬間が短い時間になるケアを積み重ねるだけの方も多し。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	地域が計画に盛り込まれることは少ないが、行事等のご家族に協力して頂けることは、計画に盛り込んでいる。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	それぞれのユニットでは、カンファレンスなどで、内容を把握し職員間で共有している。ホーム全体については、議事録を作成しているが把握できていない。	/	/	○	利用者一人ひとりの介護計画の内容は、カンファレンスの中で話し合い、職員間で情報共有できている。また、介護計画の要約はカードにまとめて、記録の際には確認できるようになっている。また、日々の暮らしの様子のほか、利用者が具体的に発した「痛い、痛い」などの言葉も生活支援経過記録に記載されている。さらに、職員の気づきやアイデアなども、個別に記録して職員間で共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎月、モニタリングをしており、アセスメントに活かしている。3ヶ月に一度計画の修正を行って日々の支援につなげている。また実際にケアするための詳細な内容を適宜修正している。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	日々の様子や支援した事柄は支援経過記録に記載している。医療的内容や、排泄、体位変換等の内容が分かりやすいように、それぞれアンダーラインで色分けしたり、○で囲んだりしている。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	詳しく記載されており、気づきについても考察をふくめ記載されている内容もある。特に夜間の様子は詳細に記載されている。その情報を共有している。	/	/	◎	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	基本3か月ごとに見直しをしている。また、退院や更新に合わせて適宜見直しを行っている。	/	/	◎	事業所では、ユニット毎に「ケアプランチェック表」を作成し、一人ひとりの様々な情報を確認しやすくなっている。介護計画は、3か月に1回を基本として見直しをしている。介護計画の変更か所は赤色と、機能向上に関する場合は青色で記載し、家族への計画変更の説明時にも分かりやすいように記載している。また、事業所では、毎月モニタリングを実施し、利用者の現状を確認できている。さらに、利用者の状態に変化が生じた場合には関係者で話し合い、介護計画の見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月、モニタリングシートを活用し、現状確認を行っている。また生活機能アセスメントを活用し確認を行っている	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	入退院など、状態の変化の際には、その都度アセスメントし、ご家族や関係者と話し合い計画の見直しを行っている。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月、ケアカンファレンス・業務カンファレンスを行っている。できるかぎり、多くの職員が参加できるように調整している。	/	/	◎	毎月、各ユニット毎に業務カンファレンスとケアファレンスを実施している。緊急案件があった場合には、出勤職員でその都度話し合いをしている。定期会議にはできる限り多くの職員が参加できるよう調整しているが、参加できなかった職員には会議録を確認してもらうほか、申し送り時に伝達して情報共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	意見が出しやすいような雰囲気作りを工夫しており、以前より積極的な意見交換できている。参加者が気づきを発言できている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	多くの職員が参加できる日をえらんだり、ケアカンファレンスと業務カンファレンスを一緒にできる時はしたり、負担を少なくしている。参加率も高い。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議録を閲覧し、参加できなかった職員は内容を確認している。また、責任者から説明したりしている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	勤務帯ごとに申し送りの時間を設け、申し送り簿・支援記録を使用し、申し送りで確実に申し送り出来るようにしている。	/	/	○	「介護業務日誌」や「ケア業務伝達申し送り簿」を活用して、勤務帯ごとに申し送りを実施している。日誌などには、職員の確認欄があり、確認後にはサインをする仕組みをつくり、確実な申し送りにつなげている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	経過支援記録は目を通すようにしている。業務日誌や申し送り簿で伝達したい事柄を記入し口頭でも伝えるようにしている。特に重要な情報はマーカー等を活用している。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	希望があっても毎回叶えるのは難しいが、他に集中できる環境を作ることにはできる。したいことを把握できるように努めている。				高齢や認知症の進行などにより、思いや意向を自分で伝えられない利用者も多いが、職員は二者択一で洋服を選んでもらったり、好みのおやつや飲み物を選んでもらったりするなど、可能な限り利用者自身で自己決定できるよう工夫している。訪問調査日には、リビングにある2台のテレビで利用者がそれぞれ違う番組を見たり、脳トレや読書をしたりする利用者を見ることができ、一人ひとりが思い思いの場所で自由に過ごされている様子を窺うことができた。また、事業所では利用者の白髪染めをしたり、好みの話題を提供して話し相手になったり、利用者の希望や楽しみを推し量りながら、より良い支援ができるよう努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自己決定出来る場面をつくり、可能な限りその都度自己決定していただいている。(入浴・飲み物・食べ物・洋服等)			○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	ご本人の出来ること、出来ないことを把握し、自己決定できるように働きかけている。その方のタイミングに合わせてできるようにしている。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	自尊心に配慮しながら、可能な限りご本人のペースを優先している。食事は本人のペースに合わせて提供している。				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	その時間を少しでも増やせるように言葉かけに努めている。また、職員との会話など楽しみを増やせるようにしている。			○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	表情などから読み取るように努めている。反応を見逃さないように観察をしている。また「自分だったら」と考え思いや意向を把握できるように努めている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	所内研修で学んでいる。声のかけ方や名前の呼び方など気をつけているが、関係性が長くなると、失礼があったのではないかと思う事がある。それらをユニット内で話し合っている。		○	◎	職員は、「人権」や「尊厳」について所内研修で学んでおり、意識した行動をとっている。事業所として、排泄支援は前回の外部評価の目標達成計画にも挙げて取り組んでおり、「トイレ」や「便所」と呼ぶのではなく、「化粧室」と言い変えたり、職員同士の会話も利用者に分からないよう、あらかじめ排泄に結びつかないよう工夫したりしている。また、耳の遠い利用者に対して、つい職員が大きな声を発してしまうことも見受けられるため、管理者は「今後も職員への注意喚起が必要である」と感じている。さらに、居室への出入りの際には、ノックや声かけをしてから入室している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	ご本人を傷つけないような言葉かけや接し方に気をつけているが、排泄に関する会話や飛び交うこともあり、配慮されていないと感じることがある。カンパレンス等で見直しを行っている。			○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら助助を行っている。	○	戸を閉めるタオルで隠すなどプライバシーには配慮しているつもりだが、トイレの声かけ、排泄に関する会話など配慮が足りないこともある。				
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室にはいる時にはノックしたり、「入っていいですか?」と声を掛け確認をしている。			○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報保護の書類にサインしており、入職時に説明を受けている。また、研修を通し理解している。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教えをもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	コミュニケーションをとりながら、傍に寄り添い信頼関係を作っている。感謝の気持ちを忘れないようにつたえている。自然に助け合う場面や、声を掛け合う場面がある。				職員は利用者同士の関係性を把握し、認知症状などから多少の摩擦が生じることもあるが、職員が間に入り関係改善に努めている。また、他の利用者の行動が気になり、攻撃的になるような場合には、職員が配席を変えるなどの配慮もしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者様同士で心配されたり、手を貸したりする場面がある。また、職員が間にはいって場面作りをしている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	注意深く見守るようにし、相性や性格を把握し、必要に応じて職員が間に入ながら、良い関係が保てるようにしている。助け合ったり話しをしたり、和む場面もある。			○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者には不安や支障を生じさせないようにしている。	○	くつろぐ場所などで、お互いの関係性を理解した上でお席の配置をさせていただきなどしている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	ご本人やご家族から情報を得て、把握している。また、面会に来られた方にも、ご関係を聞き、把握に努めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ご本人やご家族との会話の中で、馴染みの地域のことや、それまでに関わってきた地域のことなどの把握に努めている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	高齢の方が多く、関係が途絶えていることが多いが、入居している事を知り、訪ねて来られる方もおられ、また、来ていただけるよう伝えしている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	面会時間を設けず、いつでも気軽に来ていただけるようにしている。いつでも気持ちよくきていただけるように声をかけている。今年度は感染症対策のため、面会に制限を設けた。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	可能な限り希望に添えるように工夫はするがその時の状況で相談している。ご家族と外出されたり、お天気の良い日には、外でおやつを食べたり、散歩したりするなどの取り組みを行っている。	○	◎	○	現在のコロナ禍において以前のような外出はできていないが、天気の良い日には近所を散歩したり、中庭の東屋でおやつを食べたりするなど、利用者が外気に触れて気分転換ができるよう工夫している。重度の利用者も体調を見ながら、屋外に出て日光浴をするなど、戸外に出られる時間をつくっている。以前は、敷地内の家庭菜園で野菜づくりなどを楽しんでいた利用者もいたが、高齢化や屋外の暑さに伴い、現在は使用しなくなっている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	ご家族の協力を得る事はあるが、地域やボランティアの方に協力をえることはない。他部署の職員の協力を得ながら外出支援を行っている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	体調やお天気を見ながら、日光浴をしたりしている。外出可能な方であれば、体調をみながら、外出などの取り組みを行っている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	ご家族と一緒に外出されたり、ご家族の協力を得ながら、外出支援を行っているが、今年度は感染症対策のため、外出の機会が減っている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症については、所内研修等で理解している。一人一人違うため、何故そうなのかと常に考え、それらをカンファレンスで共有し、話し合いを行っている。	/	/	/	心身機能・生活機能アセスメント表を活用して、職員は利用者一人ひとりをチェックし、利用者のできることを把握している。把握した内容は介護計画の目標などにも位置づけ、職員は利用者自身でできることを継続してけるよう、見守りながら支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の出来る事出来ない事の機能低下は日々の生活の中で把握している。出来る事はご本人にして頂いている。また、体調や声を掛けるタイミングで出来る事が違うので、病態・性格・経験など加味して出来る事を継続出来るように努め、役割をみつけている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	「やってみてもらおう」という場面作りをしながら、日常生活に取り入れている。また、持つ力をアセスメントシケプランに位置付けたりしながら、できることが継続できるように取り組んでいる。	/	◎	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	楽しみや好きなことを把握し、希望を聞きながら、ご本人の出番を作っている。	/	/	/	おやつ作りや洗濯物たたみなど、職員は利用者のできることや得意なことができるよう支援している。また、テレビを見たり、脳トレや読書をしたりするなど、事業所では利用者の楽しみにしていることをやってもらえるよう支援しながら、一人ひとりが張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう取り組んでいる。季節に応じて、さくらんぼや桃の花などを背景にして、写真の撮影会をすることあり、利用者や家族から喜ばれている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	裁縫・調理の準備・食器拭き・洗濯など出来る行為の中や、テレビや音楽など希望を聞きながら役割や出番があるように取り組んでいる。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域行事に参加したり、挨拶したりすることはあるが、地域の中で出番作りは難しい。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	女性は、女性らしい身だしなみを心掛けている。ご本人やご家族に話を聞いたり、選んだものなどから好みを把握し自己表現できるように取り組んでいる。				利用者の高齢化などに伴い、多くの利用者は毎朝職員が着替えなどの介助が必要で、選択範囲を絞ったり、「この服の色でいい」と声かけをしたりしながら、整容をしている。利用者から要望が出され、職員が白髪の毛染めの支援もしている。毎朝、美容液などをぬる利用者もいる。また、長年の生活で介護度が高くなった利用者も多くいるものの、病院受診などの外出時には必ず着替えたり、職員が家族と話して、好みの服を持って来てもらったりするなど、少しでも本人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	洋服などは選んでいただいたり、女性は女性らしく、男性は男性らしく、その人らしさを表現できるよう支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	ご本人が決定出来ない場合は、ご家族から好みなど聞き、その人らしさを表現できるように努めている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出の際には、外出用の洋服を職員と選んでいただいたりしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	ご本人の気持ちを傷つけないよう、さりげなく声をかけ直したり、こっそり居室へ行って、直したり、配慮を行っている。	◎	◎	◎	
		f	整容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	訪問の美容室にお願いして施設で散髪してもらっているかたが多いが、毛染めは職員がしている方もいる。できる限り希望に沿うように努めている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	ご本人に合う服装や色をえらんでいる。また、髪をといたりひげをそったり、その人らしさが表現できるように支援している。				
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	口から食べることの大切さ、食の楽しみ、見た目の楽しみを理解している。日常的な買い物への参加はできていない。				献立や食材は2か所の業者を利用し、職員がアレンジをしながら1か月分の食材をまとめて発注して配達してもらうほか、職員が不足分の食材やおやつなどの買い出しもしている。調理の下ごしらえやおやつのお盆ふきなど、利用者にてできることを手伝ってもらいながら、各ユニットで職員が調理している。献立づくりの際には、業者の利用を止めて利用者の好みや希望を取り入れて調理することもあり、訪問調査日は七タと重なり、手作りのちらしずしに星型の錦糸卵を飾る演出がされており、季節を感じる事ができた。食器類は、自宅から使い慣れたものを持参している利用者もいるものの、事業所では利用者の状況に合わせて、使いやすい物を用意している。現在のコロナ禍において、職員は見守りや食事介助などのサポートに徹し、利用者と一緒に食事をしていないが、「職員と一緒に食べることで、利用者の食事への意欲がわいていたのではないかと考察している。また、調理の匂いや雰囲気はリビングに面したキッチンから漂っており、職員から利用者へ「今日はお寿司ですよ」と声かけしている様子も見られた。献立に関して栄養士のアドバイスは受けてものの、事業所では利用者一人ひとりの栄養スクリーニングを実施しており、食べやすい物や調理方法などを工夫している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者ともに行っている。	△	買い物・献立作り・調理は職員がおり、行っていない。ケーキの飾りつけなど、できることを把握し、発注していただいている。			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	日常的ではないがケーキなどの飾りつけ、食材のカットを行っている。職員が感謝の言葉を伝えることで、それがご本人の自信に繋がっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	ご本人やご家族に確認しているが、調理方法や味付けなどで食べられなかったり食べたりするので、職員で情報を伝達し共有し支援につなげている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	献立は調理の職員が作成しているが、食べやすい物や季節の物を取り入れている。苦手な物があれば、食事を出す前に違う物に変更したり、取り除いたりしてその方に合った食事が出来るように努めている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	嚥下困難な方にはミキサー食、咀嚼が困難な方には、刻み食と、その方に合わせた食事形態にしている。味や見かけなど考えながらしたり、食べられない食材は違うものに変更したり美味しく食べられるよう取り組んでいる。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	使い慣れた物、馴染みの物がある方はそれを使っていただいている。施設の方で準備した物も、個人専用になっている。				
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	その時の状況にもよるが、同じ食卓を囲んで一緒に食事をしながら介助している。昼食時は職員も一緒に食事できるが、朝食、夕食は利用者様のみの食事となっている。今年度は感染症対策のため、昼も別になっている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事の準備の音や匂いが常にあり、食事前には手を洗いにいたり、食卓を拭いたりもうすぐ食事だということがわかる雰囲気作りに取り組んでいる。			○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	利用者一人一人の栄養状態を把握し、主治医とも連携をしながら、必要な措置をとったり、飲み物はお茶だけでなく好みの物が飲めるようにしたり、補食を準備したり、その人に合ったものになっている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	水分が摂れない時には、飲み物を変えたり、時間をおいて勧めたりしている。食事が少なく栄養状態が良くない方には、栄養剤を飲んで頂くなどその人に合ったものになっている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立は調理の職員が作成しているが、季節の物や食べやすい物を取りいれたり、食べやすい調理方法をしている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	衛生管理は徹底している。所内研修を開き学んでいる。ハイターでの消毒や、賞味期限の管理、台所での業務の前の手洗いなど衛生管理に努めている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	歯科衛生士による研修を行っている。また、歯科衛生士にきてもらい、口腔ケアを行ったり、その都度ケアの指導をしてもらっている。ケアプランにも入っており、職員も力を入れている。				毎食後口腔ケアを実施し、自分で歯磨きなどができる利用者についても、職員が口腔内の状況を確認するようにしている。事業所では、毎食後の口腔ケアが習慣化しており、できる部分はうがいのみでも自分で行えるよう支援しながら、日常的に口腔内の清潔を支援している。また、定期的に歯科衛生士による口腔内のアセスメントのための訪問があり、職員間で情報共有してケアに活かしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	食事の後は、職員が口腔ケアを行っており、義歯の不具合など異常の把握に努めている。歯科の受診の結果や、歯科衛生士による口腔ケアの結果を共有し、ケアに活かしている。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	研修を開き、口腔ケアに入ってもらっている歯科衛生士に指導をもらっている。分からないことがあれば、口腔ケアの際、質問したり、指導してもらっている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	食後には義歯を外し洗浄している。夕食後には義歯を洗浄し、消毒している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	毎日習慣化することで、食後の一連の行為になっている。自分で出来る方はして頂きながら、口腔内の清潔を保てるように支援している。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	異常を把握できるように日常的に注意深く観察し、異常があれば、訪問歯科医に診察をお願いしたり、相談したりしている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	排泄の自立を目指すことは重要と考えている。自尊心に配慮して声掛けをしたり、トイレの誘導している。				事業所では、利用者がトイレで用を足すことを基本として支援している。日中は、重度の利用者も可能な限り、2人体制の介助でトイレへ行けるよう支援している。夜間にはポータブルトイレを設置し、排泄支援をしている利用者もいる。また、布パンツで過ごしている利用者もおり、おむつや紙パンツなどの排泄用品は職員間で必要性を検討し、利用者や家族の理解を得たうえで使用している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	様々な原因が考えられ、与える影響についても把握している。個別の記録などを参考に、その人によって違いがあることは理解し、職員間で共有している。職員の気づきをカンファレンス等で話し合っている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	パターンは、表に記録しており、職員も把握している。モニタリング等で見直しをおこなうなど、職員で共有している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	出来る限りトイレで排泄できるよう支援している。オムツ類は一人一人必要な物を話し合ってから、状態の変化に応じて変更している。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	認知症の症状が及ぼす影響を十分に理解した上で、不安なく誘導したり、入浴や食事のタイミングなど、カンファレンス等で話し合い、見直しを行っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	その方のパターンを考えながら、サインをも逃さないようにしたり、早めの声掛けを行い、失敗を防げるように努めている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	職員だけで決めずご家族に相談している。尿量などを考慮しながら、パッドなど選択したり、紙オムツやパンツの交換までに至らないように努めている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	日中、夜間の活動の仕方、立位が可能な場合など考慮しカンファレンス等で話し合い検討している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	牛乳、飲むヨーグルト、ヤクルトなど飲み物を工夫し排便を促せるようにしたり、腹部をマッサージなどの取り組みを行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	◎	一定期間の間隔や希望を考慮しながら、支援している。汚染等により、必要な際にはその時に、入浴やシャワーをしている。	◎		○	身体状況や浴室設備の関係で、湯船に浸ることができる利用者は少なく、ほとんどの利用者はシャワー浴での対応をしている。身体が温まるよう脱衣所の暖房や足浴しながら、職員は利用者が3日に1回入浴できるよう清潔保持に努めている。また、職員体制の関係で、午後の入浴となっているが、利用者の汚染時などには柔軟に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	ゆっくり焦らず、その人の希望に沿った入浴になるよう支援をしている。また入浴剤などで、気分を変えて入浴できるような取り組みを行っている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できる限りご本人の力で洗身等していただいている。その方に合わせた入浴方法をしている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	気持ち良く入浴出来るように、声かけの言葉や、時間、タイミングなど、工夫しながら支援している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前にバイタル測定したり、体調など考慮し、看護職と連携しながら入浴を決定している。				

愛媛県グループホームせと

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜勤の記録、申し送り、それまでの生活状況をとらえたうえで、カンファレンス等で話し合い把握している。	/	/	/	職員は、睡眠導入剤や安定剤のリスクを承知しており、眠れない利用者には日中の活動を見直したり、リビングでテレビを見て過ごしてもらったりするなど、可能な限り薬に頼らない支援に努めている。高齢化や重度化により、日中もベッドで寝ている利用者もいる。また、認知症状の進行などにより、昼夜興奮して叫ぶなどの利用者の状況や必要性に応じて、主治医と相談のうえ対応している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	眠れない利用者様の原因を探り、入浴時間・日中の活動など工夫し支援しているが、それでも眠れない方もいらっしゃる。必要に応じて専門医の協力や指示を得て支援している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	安易に睡眠薬に頼ると転倒等のリスクが高まる事を、職員は把握している。日中の活動や入眠時間を考えたりしてカンファレンス等で話し合い支援につなげている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	個々の体力や体調に応じて、適宜休息をとって頂いている。また、規則正しく時間を過ごせるように起床を促すなどの支援を行っている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	ご家族にお話しし、時間など考慮しながら、電話して頂いている。手紙のやり取りは困難な方が多いが、職員からの手紙の一部にご本人から、一言記入して頂くこともある。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	子機等を使用しながら、ご家族と話す機会を設けることはある。毎月のご家族への手紙や年賀状など手紙の一部にメッセージを、職員がお手伝いしながら書いて頂くこともある。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	ご自身で携帯をお持ちなおられる方もいる。また、電話を取り次いだりし、気兼ねなく電話して頂いている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙は、ご本人にお渡ししている。返事を書く支援は行っていない。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ご本人から電話をかけることについては、ご家族に話をして協力を得ている。仕事をされている方が多いので、よい時間などお聞きし、気兼ねなく会話出来るように支援している。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お財布を持ちたいと言われる方には、少額ではあるが、持って頂くこともあるが、ほぼ、お小遣いとして、金庫に預り、必要時に持ち出すようにしている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	ご家族、職員が購入されることが多く、ご自身がお金を使う機会は少ない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	日常的に買い物はされないことはない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	ご家族の理解、協力により、少額のお金を持つこともあるが、ほぼ使うことがない。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	大半は金庫でのお小遣いの預かりであるが、お金を持っておきたい方もいるので、ご家族と相談して少額を持って頂いている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	金銭管理は、規程に基づき管理している。出納帳を定期的にご家族に確認して頂いている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	できる限りニーズに合った対応をしている。また、障害サービスを継続的にサービスが利用できるよう支援したり、寝台が必要な場合には、介護タクシーを利用出来るように支援している。	/	◎	○	行きつけの美容室に出かけたり、マッサージなどの外部サービスの利用ができるよう手配したりするなど、利用者や家族のニーズに柔軟に対応している。法人の医師が、ほとんどの利用者の主治医となっているが、外部の医療機関の受診時にも、状況に応じて職員が送迎や同行支援をすることもある。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>(3)生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	門はいつも開放しており、地域の方やご家族にも気軽に入って頂けるようにしている。	◎	◎	○	事業所の敷地前にある門は、来訪者が入りやすいよう開放されている。中庭には洗濯物が干してあり、生活感があって親しみやすい雰囲気である。玄関アプローチには、手入れされた鉢植えの花が咲いており、来訪者を出迎えてくれている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	ユニットごとで、ソファやテレビの位置を考えている。ユニット内の一部に、季節ごとに飾りをつけるなど、季節感が味わえるよう工夫している。	○	◎	○	各ユニットのリビングは広く、中央に食卓テーブルが並びキッチンに面している。キッチンなどから見にくいスペースもあるため、室内用のカーミラーを取り付け、職員が利用者の状況を確認しやすくする工夫をしている。利用者や来訪者から、職員が食事の支度をしている様子がよく見え、家庭的な雰囲気となっている。各ユニットのフロアにはテレビも2台ずつ設置され、利用者一人ひとりが思い思いにソファでくつろげるようなスペースを確保している。共用空間は職員が毎日掃除しているほか、空気清浄機も設置され、清潔な空間となっている。また、利用者と一緒につくった七夕飾りが飾られ、利用者や来訪者に季節を感じさせてくれている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日居室、ホールの掃除を行っている。建物の古さや窓の位置などはあるが、不可解な音や臭いなどに注意している。	○	◎	○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節感を感じることが出来る飾りやカレンダー、花などを飾り、居心地の良い空間になるように努めている。	○	◎	○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	利用者様同士が、楽しく過ごせるように、ソファやテレビ、机等を配置するなどの空間作りをしている。	◎	◎	◎	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	扉を開けないとトイレ内が見える場所もあるため、扉を開けて中が見えないように対応している。	○	◎	◎	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	ご本人、ご家族の希望により、使い慣れた物や、飾り物、写真など部屋に置き、居室空間が満足いくように支援している。	◎	◎	○	居室には、エアコンとベッドが備え付けられている。居室に使い慣れたチェストなどを持ち込んでいる利用者もいるものの、基本的には車いすを使用している利用者が多く、動線を確保するためにもシンプルに片付けられている。また、家族の写真やお位牌を持ち込んでいる利用者もあり、一人ひとりが居心地よく過ごせるような居室づくりをしている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	それぞれの自立度に応じた居室環境にしている。PTイレや介助バーを設置したりして、出来ることを活かしながら安全な生活が送れるように支援している。	○	◎	○	ポータブルトイレに介助バーを設置して、安全に利用できるようにしたり、ベッドから居室の隣にあるトイレまで一人で安全に移動できるようにいすを配置し、手すり代わりに活用している居室もある。口腔ケアの用品を柔らかいスポンジに変えたり、カップを横広のスプーカップにすることで一人で飲めるようにしたりするなど、事業所では、利用者ができるだけ自立した生活が送れるよう様々な工夫をしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	認知レベルに合った工夫を心掛けている。利用者様が不安になったり、困らないようにカンパレンス等で検討している。	○	◎	◎	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	個々のこだわりや希望に応じて、雑誌・文具・コップ・箸・茶碗など必要な物を使用して頂いている。	◎	◎	◎	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	研修会等を開催し、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。	○	◎	◎	利用者が鍵をかけて自由に出入りできないことの弊害について、全ての職員が理解できている。玄関の施錠は、防犯のため夜間のみとし、ユニットの出入り口は昼夜通して開放されている。また、高齢や介護度の高い利用者も多く、外に出ようとする利用者は少なくなっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	鍵を掛けない暮らしについては理解しており、実現したい。階段から落下された方もおり、安全面を考慮し夜間のみ鍵をしているが、ご家族とも、もっと意見交換をする必要がある。	○	◎	◎	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	建物、ユニットの鍵は開放されている。心理的な圧迫感がないよう取り組んでいる。	○	◎	◎	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	フェイスシートやサマリーで情報を得ており、現病については、申し送り、定期的なカンファレンスで十分共有している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	アセスメントやケアプランで、異常のサインやその際の対応について確認している。記録では、変化があれば分かりやすくマーカで色分けし把握しやすいようにしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	常に看護職員や主治医に相談できる、体制である。重症化防止の為に、早めの処置ができています。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	看護職員を中心に受診状況を把握しており、主治医に相談してご家族の協力を得ながら受診している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	疾患に応じて、希望する医療機関を受診したり、必要に応じて紹介を受けている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	主治医、看護職員から説明し、受診出来るようにしている。ご家族へお伝えすべき内容は、看護職員やユニット長が伝えている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時に職員が同行し、介護サマリーでご本人に関する情報を提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院中様子を見に行ったり、病院スタッフと連携し早期退院、帰所を目指して情報交換、相談をおこなっている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	医療連携室を介してすることが多いが、日ごろから顔のわかる関係性を目指して関係作りをしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	常に主治医に相談できる体制である。看護職員を中心に相談しながら、主治医やかかりつけ医への情報提供を行っている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	看護職員が夜間緊急連絡体制を組んでおり連絡が取れるようにしている。主治医の協力も得やすい体制ができています。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日頃から看護職員同志で情報交換しており、早期発見、治療に繋がっている。必要に応じて看護職員が主治医に相談、対応している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬情から職員はその内容を理解しており、申し送り、カンファレンスで情報交換している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	定期処方については、薬箱に個別に準備している。また、職員が間違えないよう、服用前に職員同士で確認してから服用して頂いている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	与える影響について申し送り、カンファレンスで共有しており、確認している。日々の観察から、気になることがあれば主治医に相談している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	薬が与える影響や変化など、記録し主治医や看護師に報告している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時には確認している。必要があれば、その都度、確認をしている。その際には、主治医、看護職員から病態説明し、今後起こり得ることを含め、ご家族に十分説明し、方針を共有している。	/	/	/	事業所では、「最後まで、人間らしく、その人らしく、安らかに」を基本理念として、看取りケアを実施している。重度化した場合と、終末期のあり方については、家族を含め関係者で話し合い、方針を共有している。事業所では、医療や看護の24時間のオンコール体制が整っており、職員は安心して利用者に寄り添うことができている。また、重度化や急変時には病院への入院や特別養護老人ホームなどへの転院する利用者も多い。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	ご家族の考える終末期とケアする側、医療提供側での終末期の捉え方から方針を立て共有している。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	比較的、終末期ケアの経験職員が多いが、研修もを行っている。必要なプランが十分共有され主治医とも相談しやすいため、見極めやすい。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入居時に説明するが、状態変化時その都度十分な説明をおこなっている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	主治医、看護職員、ご家族の意向を取り入れながら、カンファレンス等で検討し共有している。ケアプラン立案時から、援助方針、家族の意向等を把握し、共有している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	ご家族には、十分な説明をしている。ご家族の意向を取り入れながら、泊まって頂くなど、一緒に利用者様との時間が有意義なものになるよう支援している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	定期的に研修を行い学習をしている。感染症が拡大兆しがある場合には、再度、周知徹底している。今年度は特に学ぶ機会が多かった。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	マニュアルがあり、それに添って対応できるように、研修を行っている。また、感染の兆しがある時には再度確認している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	ニュース医療機関等から情報を得て、再度予防法の確認を行っている。発生した場合は最小限で収まるように周知徹底している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	テレビやインターネット等で情報を収集し、ご家族にも情報提供している。感染状況によっては面会を制限するなど協力していただきながら対応を行っている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	玄関で手指消毒、マスク着用をさせていただくなど来訪者にも協力を得ている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	毎月、手紙で利用者様の変化や様子を知らせている。面会時には様子やエピソードなど伝えている。				現在のコロナ禍において、感染症対策で面会や外出制限が設けられているため、以前のように家族に呼びかけて、行事や催しに参加してもらうことができなくなっている。現在は家族会も中止し、面会も週1回の制限を設けているものの、玄関のガラス越しで電話の子機を活用して話ができるよう工夫している。日常の利用者の様子は職員から電話連絡のほか、手紙に写真を添えて伝えるようにしている。手紙は担当職員が毎月書いており、利用者の直筆の手紙を添えることもあり、家族から喜ばれている。事業所の生活も長くなり、家族から職員に「父の日のプレゼントを用意して欲しい」と頼まれて用意した事例もある。事業所の運営上の事柄や出来事については、運営推進会議録や「せと風だより」を家族に送付して理解を得るようにしている。また、職員の異動等についても事業所便りで伝えている。職員は、家族と気兼ねなく話ができる関係を築けており、電話連絡や来訪時を活用して、家族から意見や希望を聞いている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	希望があれば宿泊して頂けるようにしている。あいさつや会話を交わし、いつでも気軽に訪れられるように雰囲気作りをしている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事をお知らせしたり、外出や催し物など、一緒に参加して頂いたりしている。面会時に散歩に行かれる方もいる。今年度は、感染症対策のため機会が減っている。			○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	広報、電話での報告がほとんどであるが、写真を送ったりして日常の様子が分かるように努めている。			◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	会話などから不安なことや、意向など確認し、把握したうえで報告している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	認知症の疾患の悪化など、考えられることを伝えながら、穏やかに関わり続けて頂けるようお願いし、理解が得られるように努めている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	広報や運営推進会議、面会時に報告し、理解や協力を得ている。			○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	行事の参加の声掛けや家族会に参加して頂いているが、今年度は感染症対策のため行っていない。				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	ケアプランの説明時にリスクも含めて説明している。また、状態の変化に応じて、十分な説明を行っている。具体策や限界があった場合の理解を得られるよう努めている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	ユニット長を中心に働き掛けているが、面会時の会話や、行事への参加を通して、職員とご家族が顔馴染みになることで、気軽に相談されている。				
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	十分な説明をし、理解、納得を得ている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居の意思がある場合には十分な説明をし、希望先に移れるよう支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金改定時には、改定前に説明し、同意をえている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	設立前に地域の方への説明会を開き自治会に入り町内会の一員として、関わっていただいている。	/	◎	/	事業所は町内会に入っており、祭りや川の清掃など地域の様々な行事に参加したり、地域の幼稚園児や中学生との交流をしたりしている。敷地内にある以前デイサービスとして利用していた空きスペースを、近隣の幼稚園の建て替えに伴ってスペースを貸し出し、今年の5月頃まで幼稚園児の声などのにぎわいがあった。現在のコロナ禍において、地域住民との関わりをなかなか持てない状況となっているが、運営推進会議等での関わりは継続できているほか、年2回発行している「せと風だより」も地域に回覧してもらおうなどの情報発信もしている。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	町内会への参加は積極的に行っている。日頃からあいさつをしたり、子供会の方も入りやすいようお祭りの際など一員として関わっていただいている。	/	◎	◎		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	避難訓練時等には、参加して頂いたり、見守りして下さるなど協力できる体制ができています。	/	/	/		/
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	用事の際には入ってこられるが、まだまだ気軽に立ち寄られることは少ない。	/	/	/		/
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらおうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	回覧版を回しながら、馴染みの関係に繋がっている。また、高齢者介護の事で悩まれる事業がある場合には、相談に来られる。	/	/	/		/
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	地域の方とは、行事や訓練時の関わりが多い。ボランティアの方が長年来られている。	/	/	/		/
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域にある施設やサービスを把握している。近隣で利用者が活用できる施設があれば、外出時に利用したりしている。	/	/	/		/
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近くの喫茶店を利用したり、保育園との関わりを持ち、行事等を行っている。近隣の保育園との和が広がるようになった。	/	/	/		/
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	地域の方には必ず参加いただいている、ご家族にも案内を出して、少ないが参加して頂いている。今年度は、文書開催となり、書面での報告となった。	/	○	◎	コロナ禍で以前のような集合形式での運営推進会議が開催できなくなり、現在は書面での開催となっている。会議開催にあたり、事前に利用者の様子やサービスの実際、サービス評価などの資料と一緒に、「運営推進会議要望助言書」を送付し、市担当者や地域住民、家族等から意見をもらい、検討内容を報告している。また、外部評価の利用者家族と地域アンケートの回収率がほぼ100%に近く、日頃の事業所の取組みに対する家族や地域の評価の高さを窺うことができる。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	日頃の状況、活動状況は毎回、サービス評価についても報告を行っている。外部評価があった際には、その結果も公表、報告している。	/	/	◎		
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	事業所の抱えている問題についても、地域の方に報告し、良い案を頂くなど、意見や提案をサービス向上に活かしている。	/	/	◎		
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	家族会を兼ねたり、研修会を計画したり地域の方やご家族にも興味のある内容を検討して開催している。日時についても多くの方に参加して頂けるように調整を行っている。	/	/	◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	松山市には必ず公表、報告している。ご家族様に議事録をいつでも見れるようにしてある。	/	/	/		/

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は分かりやすいものであり、全体で共有することができている。個別のサービス計画に理念を盛り込み、モニタリングしている方もいる。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	事業所理念が、とても分かりやすく伝えやすい。入居時、評価公表時に伝えている。	○	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	所内外の研修については、協力的である。所外については、個別に必要性を協議し、決定する。勤務扱いとして研修に参加するなど、学ぶ環境についての整備には積極的である。	/	/	/	代表者は法人の医師であり、訪問診療などで事業所へ来訪する機会も多く、職員とも気さくに話しをしている。法人・事業所として、職員のスキルアップや資格取得にも協力的なほか、希望休や有給休暇の取得も推進している。職員は、「働きやすい職場と感じている」ものの、一方でストレスを軽減するための工夫の必要性を指摘されており、管理者は新入職員には個別面談ができていないものの、定期的に全ての職員と個別面談ができていないため、必要性を実感している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	管理者個人の業務とケアに追われているが、ユニット責任者が把握し、管理者と協議してスキルアップを図っている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	勤続年数、資格など考慮している。働く環境については把握している。職員の勤続年数も長い。新規の職員の入職がなかなか実現しないことに悩んでいる。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	積極的にネットワーク作りをしている。職域を超えて関わっている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	利用者様や職員の状況の把握に努めている。連絡がしやすいように環境を整えている。	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	定期的に研修を行って学んでおり、不適切なケアがないか、ケアカンファレンスで振り返るようにしている。身体的虐待に限らず、精神的、言葉による虐待についても厳しく対応している。	/	/	/	虐待や不適切なケアについては、定期的に学ぶ機会があり、日々職員同士で注意し合いながらケアに当たっている。管理者やユニット長などが参加する責任者会議の中で、職員からの報告やリーダーが発見した事例について検討している。また、検討した内容はユニット間でも情報交換するほか、業務カンファレンスの中で話し合い、全ての職員が共有できるようにしている。また、事業所には、身体的拘束等の適正化のための指針があり、職員は理解できている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	各ユニットで申し送りで自分のケアを振り返ったり、カンファレンスで協議している。日々気軽に話し合うことができる。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	ユニット長や管理者に相談したり、カンファレンスで話し合い、不適切なケアが見逃されないようにしている。研修を通して、対応方法や手順について学んでいる。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	体調管理に注意し、職員の話聞き、精神的な状況について管理者や代表者に報告し把握している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束について、話し合う機会も多く定期的な研修も行っている。禁止事項については、把握できている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	ケアプラン見直しの時期に合わせて、必要性・点検など検討し検討記録を作成している。カンファレンスで話し合いの場を設けている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	適宜、十分説明し、ご家族と相談し話し合いを重ねながら理解を図っている。4点柵も身体拘束になることを、入居時に説明している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	成年後見制度については、利用されている方もいたり、研修を開いたりして制度を理解している。日常生活自立支援についての理解は乏しく介護支援専門員に委ねている。					
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	在宅生活時に利用していた、サービスが継続して利用できるものがあれば、活用できるよう関係機関と連携している。					
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	視聴覚センター等の活用をしたことがあり、サービスが活用できたり、関係者とのかわりが途絶えないよう連携している。					
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを作成している。研修会で学ぶ機会がある。緊急対応時は、看護職員が中心になることが多いが、職員は経験を積み重ねる中で自然に動ける職員が多い。					
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	救命講習や緊急時の対応について定期的に研修を行い身に付けている。					
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故・ヒヤリハットについて、報告書を作成し、カンファレンスで対応策を協議し、再発防止に努めている。必要に応じて全体で協議し、共有している。					
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	申し送りや報告し、事故防止につながるようにしている。カンファレンスで検討し、プランに反映している。					
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成している。苦情をそのままにしないよう対応している。代表者にも報告している。					
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情に対しては、速やかに対応するように心がけている。今までに市役所等に報告するまでに至る事例はない。ケアに関しての相談が多い。					
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	内容に応じて事業所内、ユニット内、法人全体といった形式で対策案を話し合い、サービス改善の経過や結果を伝えている。					
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	事業所の窓口は決定しており、契約時に説明しているが、ユニット責任者や職員に訴えることが多い。要望の時点で速やかに対応し、継続的に満足されているかモニタリングしている。			○	利用者からの意見や要望については、重度の利用者が多く訴えが少ないため、職員が聞き取って対応している。家族には電話連絡時に声をかけするほか、介護計画の説明時にも意見や要望等を自由に書いてもらうようにしている。職員から出された意見や提案については、業務カンファレンスの中で検討しているが、管理者は職員一人ひとりと個別に話し合う機会の必要性を感じており、定期的に個別面談を実施するなどの取組みを期待したい。	
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	事業所の窓口は決定しており、契約時に説明しているが、ユニット責任者や職員に訴えることが多い。苦情にまでつながることは少ない。	◎		○		
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	契約時の説明となっており、ユニットごとでユニット長が意見要望をきくことが多い。個別に対応することで機会を設けている。					
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	代表者は足を運び関わっている。職員の要望なども提案しやすい環境ができています。					
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	職員の話聞く機会はあるが、話し合う場をもうけていない。面談等の機会が少ない。					○

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	自己評価に取り組んでいるが、代表者は実施していない。				外部評価の自己評価は全ての全員で取り組んでおり、訪問調査日には全ての職員が作成した自己評価の綴りを確認することができた。評価結果と目標達成計画は、市担当者や地域包括支援センター、運営推進会議のメンバーに報告している。また、家族には、各ユニット長が外部評価の結果をまとめた分かりやすい総評を作成のうえ報告をしている。さらに、目標達成計画への取り組み状況についても、運営推進会議の中で報告するほか、確認などのモニターをしてもらっている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	改めてケアを見直す機会になっている。目標を決め、振り返りを行うことで新たな課題を見つけることができている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	課題を抽出し、計画的に取り組んでいるが、日が経過すると忘れてしまうことがある。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議で家族等に評価結果、目標達成計画を報告しモニターしていただいている。	○	◎	◎	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議で報告している。計画が継続されず忘れがちになる。定期的な振り返りに努める。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	火災、地震、水害に関するマニュアルは作成している。定期的に状況別の訓練を行うことで周知している。				地域住民や消防署とも連携を図りながら、年2回の避難訓練を継続して実施している。現在のコロナ禍において、地域住民等が参加した合同訓練はできていないものの、地域との協力支援体制は確保できている。また、訓練予定は前もって地域住民などに報告し、家族にも訓練開始と終了の報告もできているが、利用者家族アンケートの結果からは、家族の理解が乏しいことが窺える結果となっている。さらに、事業所内には、「消防用設備位置および避難経路図」が貼られており、万が一の場合にも、消防署員や地域住民などに分かりやすく表示している。コロナ禍の終息の際には、家族にも避難訓練への参加協力を呼びかけられるなど、実際の重度の利用者の避難について、理解してもらえるよう工夫を望みたい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	消防訓練は年2回(1回は夜間想定)地震水害訓練は1~2年に1回行っている。マニュアルに沿って行い、訓練後マニュアルの見直しを行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	各ユニットに防災担当者があり、消火設備点検及び非常時備蓄品避難時の持ち出し物品等の管理を行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	特に夜間想定訓練時に地域防災の方々に参加頂き協力、助言をいただいている。非常時の協力・支援体制ができている。	△	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	最近では地域の防災訓練に参加できていない。地域での取り組みを把握できるように参加していきたい。				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	認知症ケアに関することは今年度発信できたとは言いが、その他の研修など設けることはできた。実践報告等を行っていきたい。				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	近隣の方が入院されたりすると意識して情報を得必要に応じて相談支援している。		◎	○	近隣住民の葬儀に参列するなど、交流も多く地域に根ざした事業所として周知されており、近隣住民からの相談支援にも取り組んでいる。現在はコロナ禍のため途絶えているが、事業所では認知症カフェの開催や地域のイベントへの参加・協働の実績もあり、コロナ禍の終息の際には再開できることを期待したい。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	アビールが少なく、気軽に活用できる場所として活用されていない。今年度は特に感染症対策のため立ち寄ることが減っている、日ごろから出来る事を検討したい				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	中学校、高校の職場体験や、実習の受け入れを行っている。ま				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	事業所自ら企画するイベント等はないが、市町、地域包括支援センター等から依頼があれば、協力したい。傾聴ボランティアの受け入れを行っている。			○	